



印刷用PDF作成と入稿の手引き

—アドビアプリケーションからPDF/X-1aの作成—

Adobe® InDesign® CS 日本語版

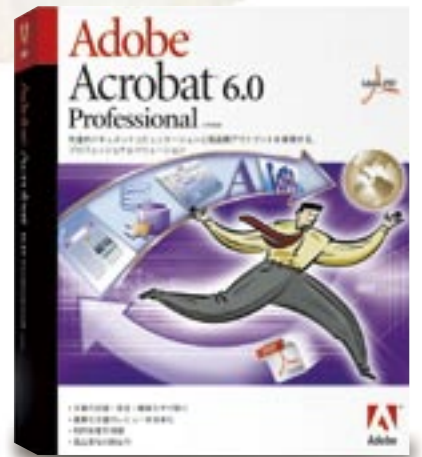
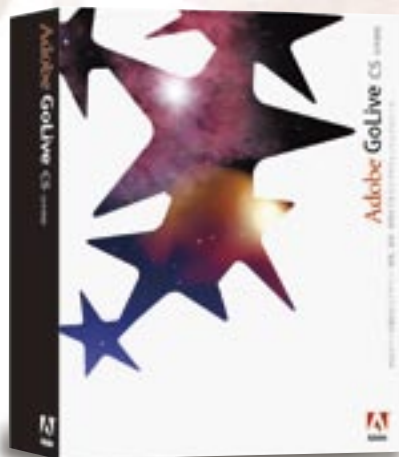
Adobe® Photoshop® CS 日本語版

Adobe® Illustrator® CS 日本語版

Adobe® Acrobat® 6.0 Professional 日本語版

Adobe® GoLive® CS 日本語版

for Macintosh/Windows*



印刷用PDF作成と入稿の手引き

アドビアプリケーションから PDF/X-1a の作成



Adobe Creative Suite version
クリエイティブ スウィート版

Adobe Creative Suite



Adobe® InDesign® CS 日本語版



Adobe® Photoshop® CS 日本語版



Adobe® Illustrator® CS 日本語版



Adobe® Acrobat® 6.0 Professional 日本語版



Adobe® GoLive® CS 日本語版

目次	PDF/X-1a とは？	2
	この冊子の目的（PDF/X-1a の実践）	3
色管理	カラーマネジメント環境設定	4
	カラーマネジメント環境をつくる	
	カラーマネジメントの原理とその運用(1)	5
	CMS の原理／モニタとの色合わせ	
	カラーマネジメントの原理とその運用(2)	6
	プリンタでの色合わせ	
	PDF/X-1a 作成のための PostScript 書き出し	
アプリケーションでのプリフライト	アプリケーションにおけるプリフライトの注意点(1)	9
	PostScript 出力前のチェック	
	アプリケーションにおけるプリフライトの注意点(2)	10
	透明の分割・統合について	
	アプリケーションにおけるプリフライトの注意点(3)	12
	アプリケーション設定 (Adobe InDesign CS、Adobe Illustrator CS)	
PS 書き出し	PostScript データ書き出し	14
	(Adobe Illustrator CS)	
PDF 変換・プリフライト	PDF 変換とプリフライト	16
	PDF/X-1a 生成の流れ (Adobe InDesign CS 編)／	
	PDF/X-1a 生成の流れ (Adobe Illustrator CS 編)／	
	Adobe Acrobat Distiller 6.0.1 の環境設定	
	Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライト／プリフライト結果に	
	問題がある場合／Adobe Acrobat 6.0 Professional で詳細なプリフライト	
出力前チェック	出力前のチェック項目	25
	検証スタンプの確認／分版プレビュー	
	透明分割プレビュー	
付録	Adobe Acrobat 6.0 professionalからの PostScript 出力	27
	制作会社が PDF/X-1a を生成するワークフロー	28
	印刷会社が PDF/X-1a を生成するワークフロー	29
	Windows 版での Adobe Illustrator CS の設定	30

[PDF/X-1aとは？]

なぜPDF/X？

従来の商業印刷物制作では、多くの工程が存在し、その間を何度も行き来するために、制作以外に多くの時間を必要とします。DTP化、デジタル化の普及は、工程を部分的には短縮しましたが、制作物を作成するための中間生成物（色校など）が複数の部門にわたって存在し、その間にトラフィックがあるという状態は根本的には解決していません。しかしながら、この問題を根本的に解決する方法が存在します。それがPDF/Xなのです。

本冊子が提案するPDF/Xベースのワークフローを利用することによって、商業印刷物の制作は画期的に短縮できます。理想的なワークフローを組むことができれば、カメラスタジオ、制作部署、印刷所の3カ所だけですべての工程が完結するのです。

PDF/X-1a ってなに？

現在PDFはデジタルコミュニケーションにおける「共通言語」のスタンダードとして広く活用されています。様々な種類のPDFの中で、印刷用途に最適なPDFの規定がPDF/X-1aです。PDF/X-1aは従来からの印刷工程を特に重視し、印刷物の制作に限定された基準で、その仕様はISOで規定されている世界標準の規格に認定されています。（ISO 15930-1:2001）

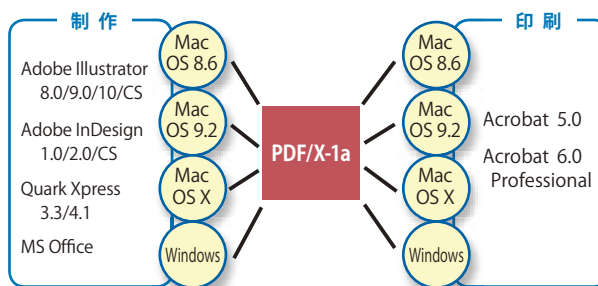
印刷業界では、「より早く」「より安く」「より高品質に」というコンセプトが常識になり、制作会社、印刷会社間の競争がますます激化する中、PDF/X-1aが次世代の標準として大いに注目を集めている大きな理由は、従来のパブリッシング方式に比べて費用と時間を節約できるという点です。信頼性が高く、しかも高効率なこのファイルフォーマットの活用で、全く新しいデジタルワークフローが可能になり、印刷工程の大幅な省略化が実現します。

PDF/X-1a でなにが変わるの？

従来のワークフローでは、出力に関するいろいろな制約、問題が、コストや納期に与える影響は少なくありませんでした。そういった問題点を解決してくれるのがPDF/X-1aです。

- OSやアプリケーションに依存しない出力
- 出力トラブルからの脱却（フォント、色等）
- 役割分担と責任範囲の明確化
- ファイル容量が小さいのでリモートブレード（ネットワーク経由の電子送稿）に最適
- 制作側でのプリフライトによるデータの検証などのメリットが考えられます。

■ PDF/X-1a による出力フローのメリット （制作側と、印刷側が同じ環境を持たなくてもよい）



色基準って？

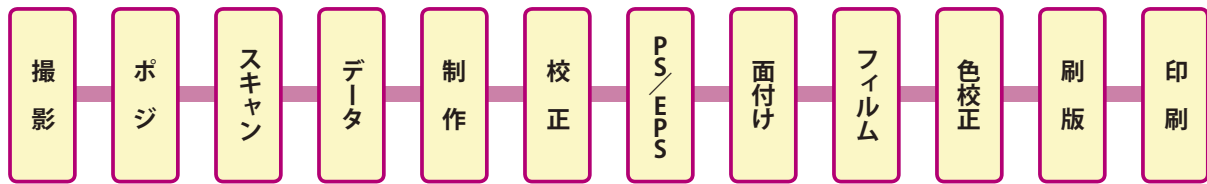
PDFワークフローを完成させるために必要なもう一つのポイントは「色」の基準です。撮影、制作ソフト、プリンタ、印刷とすべての工程で同一の「色基準」を設けることで、印刷上の色に関する多くの問題をクリアします。

Adobe Creative Suiteでは、各アプリケーションの「カラー設定」ダイアログでプリセットを選択することにより、アプリケーションを全て同一のICCプロファイルで管理し、カラーマネジメント環境を統一します。このワークフローではRGBは「Adobe RGB(1998)」、CMYKは「JapaColor2001Coated」を色基準として設定します。制作側と印刷側とがカラーマネジメント環境を合わせることで、統一されたカラー基準で仕事が完結されます。

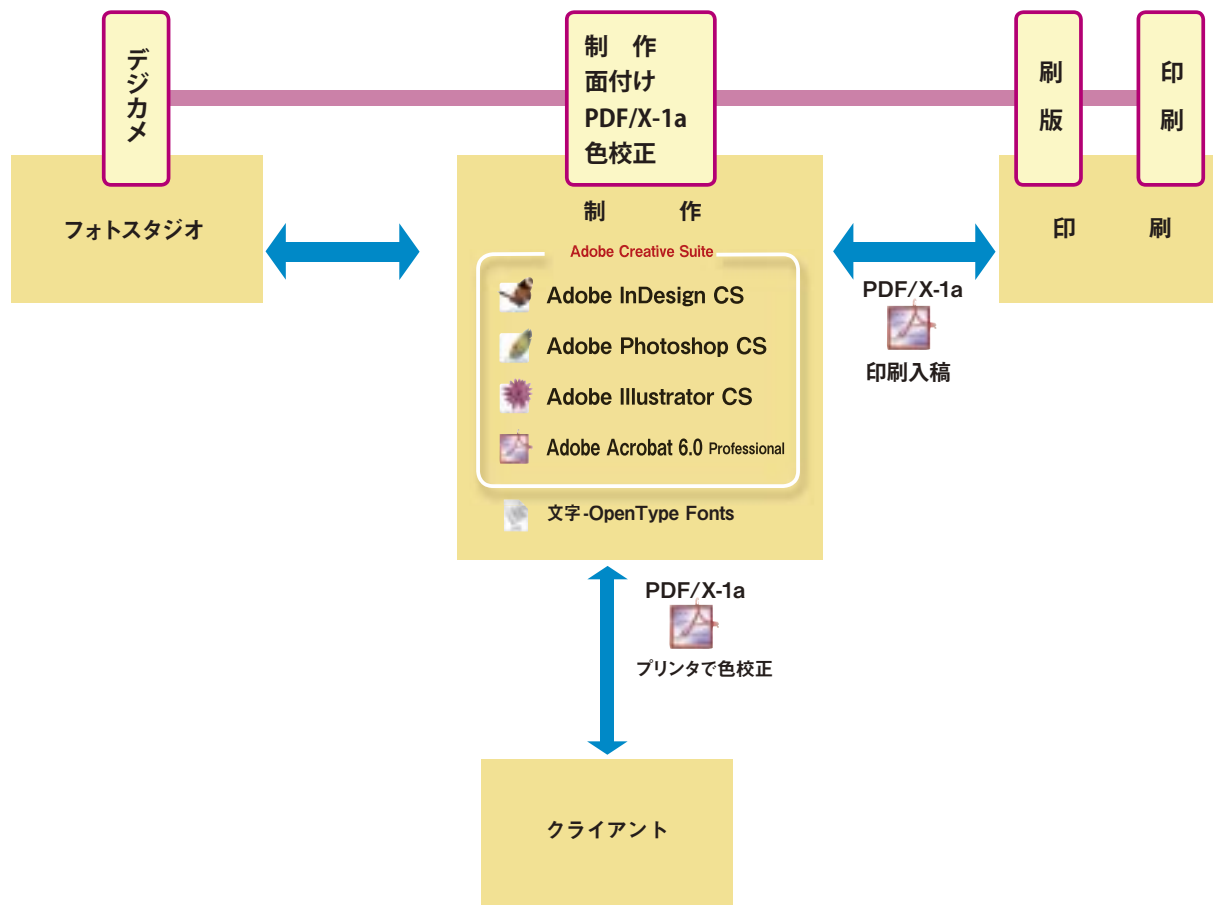
また、カラーマネジメントに対応したプリンタを使用することにより、アプリケーションの「カラー設定」を利用して、極めてオフセット印刷に近い色再現を可能にします。つまり今までのように印刷からの色校正を必要とせず、制作側で色校正まで完結させてしまう新世代のワークフローが実現します。

この冊子の目的(PDF/X-1aの実践)

[従来のワークフロー]



[新世代ワークフロー]



■ Acrobat 6.0 Professional の PDF/X サポートでワークフローが現実化

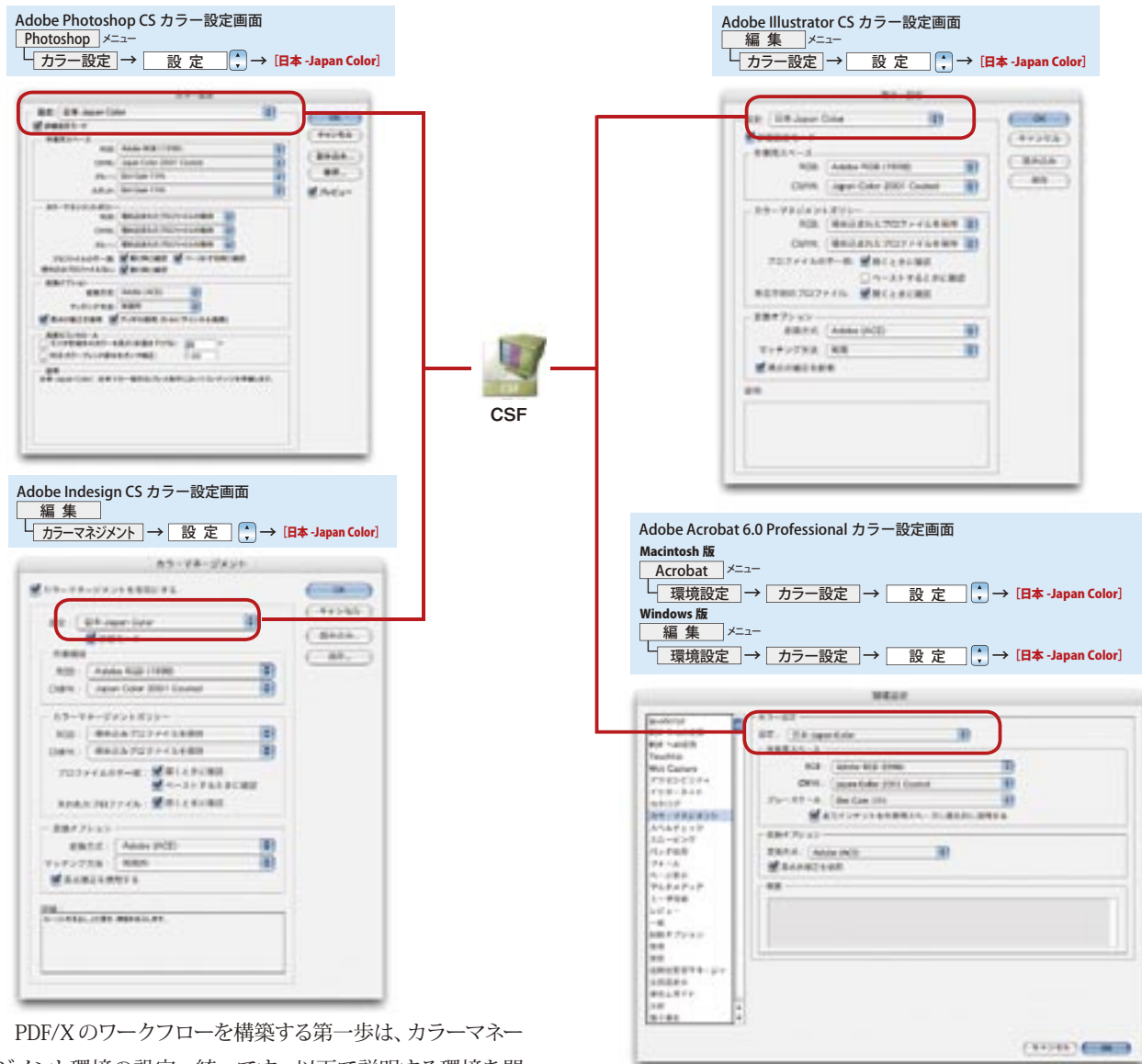
PDF/X ベースのワークフローの核となるのは、Acrobat 6.0 Professional です。Acrobat 6.0 Professional は、PDF の作成、プリフライトの2つの局面で、PDF/X をサポートします。

PDF/X は、印刷用データとしての ISO (The International Organization for Standardization) の規格で、PDF の運用上のガイドラインを示しています。PDF/X は PDF 上で、印刷上のトラブルの原因となる色、フォントなどの諸設定の運用を制限し、円滑な印刷工程を実現するものです。

ISO の規格としての PDF/X には、PDF/X-1a と PDF/X-3 があります。前者は、特定の出力デバイスで使用する CMYK、および特色のワークフローをサポートするものです。本冊子は、この PDF/X-1a によるワークフローを解説するものです。後者は、LAB などのデバイスに依存しない色を利用してワークフローをサポートします。

カラーマネジメント環境設定

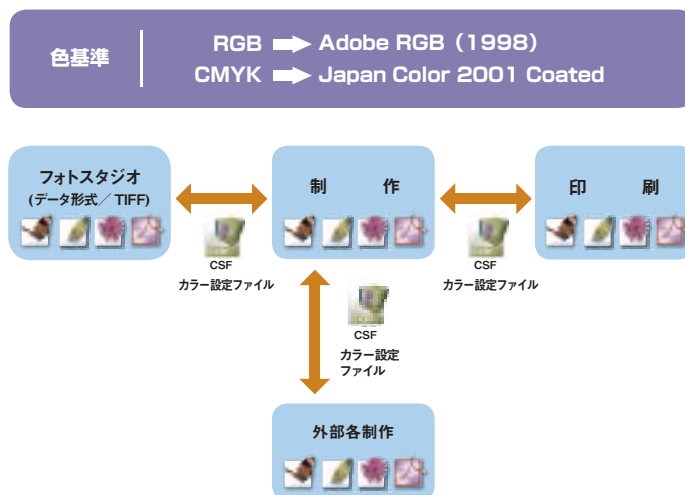
■カラーマネジメント環境をつくる



PDF/Xのワークフローを構築する第一歩は、カラーマネジメント環境の設定、統一です。以下で説明する環境に関係する各部門、各マシンで設定します。カラーマネジメント環境設定は、カラーセッティングファイル(CSF)によって行います。Adobe Acrobat 6.0 Professionalをインストールすると、システムのカラーセッティングフォルダ<OS>によって異なります>に、自動的に**日本-Japan Color**がインストールされます。これを、各アプリケーションの[カラー設定]ダイアログで選択します。**日本-Japan Color**を選択すると、作業用色空間として、RGBは[Adobe RGB]、CMYKは[Japan Color 2001 Coated]が自動的に設定されます。なお、特別なカラー設定を行う場合には、Adobe Photoshop CSの上で設定を行ったものをCSFファイルとして保存し、OSのカラーセッティングフォルダに入れた上、各アプリケーションでそのCSFファイルを選択します。

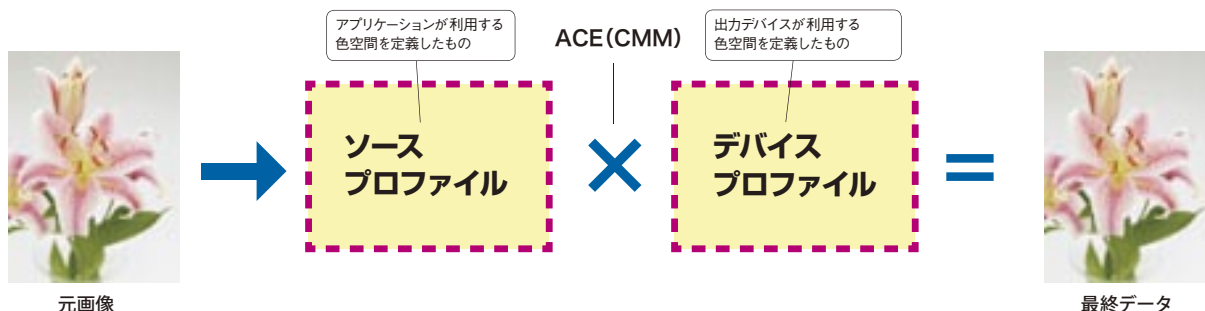
※複数のPCで色の統一をはかる場合CSFファイルを受け渡して下さい。
※雑誌用のカラーセッティングファイルは www.adobe.co.jp よりダウンロード可能です。(「サポート」「ダウンロード」「ICCプロファイル/CSFファイル」)
-Users/ あなたのログインユーザ名 /Library/ColorSync/Profilesまたは
-Library/ColorSync/Profiles フォルダにコピーします。

色基準とカラー設定共有によるワークフローの構築



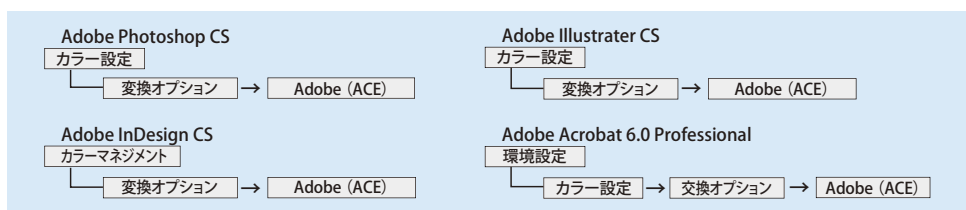
カラーマネジメントの原理とその運用(1)

■ CMS (カラーマネジメントシステム) の原理

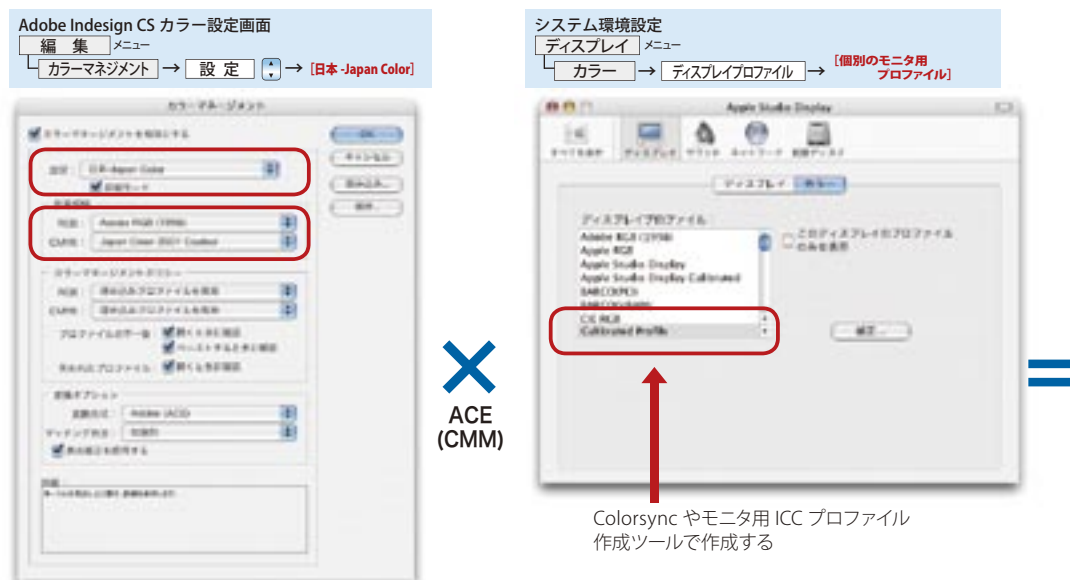


カラーマネジメントの原理を表わす方程式は、上記のひとつしかありません。「ソースプロファイル」は、アプリケーションが利用する上で基準となる色空間を定義したものです。「デバイスプロファイル」は、モニタ、出力機などの出力デバイスの色空間を定義したものです。2つの色空間は異なっていますが、2つのプロファイルを利用しデバイスから出力される色味を調整するのがカラーマネジメントシステム (CMS) です。CMS によって、異なる色空間での色が変換補正され、各デバイスで最も近似した色として表現されるのです。ただし、この仕組みが有効に機能するためには、デバイスプロファイルの作成を含めて、デバイスがきちんと調整 (キャリブレーション) されていることが必要です。

CMSは、前ページで紹介した日本-Japan Color を、アプリケーションが選択することによって、「Adobe (ACE)」が自動的に設定されます。これは、各アプリケーションの「カラー設定」ダイアログで確認できます。具体的には次のとおりです。



■ モニタとの色合わせ



たとえば、本冊子で紹介する「Japan Color 2001 Coated」の色をモニタ上で実現するには、アプリケーション側でソースプロファイル「Japan Color 2001 Coated」を選択し、モニタ上ではデバイスプロファイルとしてモニタ用の補正プロファイルを選択します。

モニタプロファイルを選択するには、Macintosh では [システム環境設定] を開き [ディスプレイ] を選択して、[カラー] タブをクリックし、[ディスプレイプロファイル] 欄でモニタ用の補正プロファイルを選択します。

Windows では、[コントロールパネル] を開き、[画面] をクリックして、[設定] タブをクリックします。[詳細設定] ボタンをクリックして、表示されたダイアログで [色の管理] タブをクリックし、[追加] ボタンをクリックして、表示されたダイアログ上でモニタ用の補正プロファイルを選択します。

カラーマネジメントの原理とその運用(2)

■プリンタでの色合わせ

プリンタで色合わせを行う方法は2つあります。

- ①アプリケーション側で色変換を行う方法
- ②プリンタのカラーマネジメント機能を使う、つまり、プリンタ側で色変換を行う方法

以下、①②それぞれの方法で色変換を行う場合のダイアログ設定を、Adobe InDesign CSとAdobe Illustrator CSについて例示します。また、イメージセッタ、CTP 出力用の PDF/X-1a を作成するための PostScript 出力についても説明します。

①アプリケーションのカラーマネジメント機能を使う場合

①では、アプリケーションの[カラー設定]で[Japan Color 2001 Coated]を選択しておいて、アプリケーションの[プリント]ダイアログ——[カラーマネジメント]で、以下の設定を行います。

この設定によって作成された PostScript ファイルを、プリンタで出力すると、[Japan Color 2001 Coated] をターゲットとしてシミュレートされた色が出力されます。



Adobe InDesign CS の場合

カラーマネジメント

Adobe InDesign CS
編集メニュー
カラーマネジメント → 設定 → [日本-Japan Color]

プリント

Adobe InDesign CS
ファイルメニュー
プリント → カラーマネジメント → 以下を設定

× ACE (CMM)

- ・プリント設定: カスタム
- ・プリンタ: プリンタ選択
- ・ソーススペース: ドキュメント
- ・印刷領域: プロファイル: プリンタ用デバイスプロファイル



Adobe Illustrator CS の場合

カラーマネジメント

Adobe Illustrator CS
編集メニュー
カラー設定 → 設定 → [日本-Japan Color]

プリント

Adobe Illustrator CS
ファイルメニュー
プリント → カラーマネジメント → プリントスペース → 以下を設定

× ACE (CMM)

- ・プリントスペース: プロファイル: プリンタ用 ICC プロファイル
- ・マッチング方法: 知覚

※ Windows 版での設定は P30「Windows 版での Adobe Illustrator CS の設定」を参照下さい。

カラーマネジメントの原理と運用(2)

②プリンタのカラーマネジメント機能を使う場合

②の方法でも、①と同様に [カラー設定] では [Japan Color 2001 Coated] を選択します。アプリケーションの [プリント] ダイアログ—[カラーマネジメント]—[プロファイル] 欄で [ドキュメントの CMYK 領域 -Japan Color 2001 Coated] を選択します。アプリケーションの [プリント] ダイアログ—[カラーマネジメント]—[プロファイル] 欄で [ドキュメントの CMYK 領域 -Japan Color 2001 Coated] を選択します。アプリケーションの [プリント] ダイアログ—[カラーマネジメント]—[プロファイル] 欄で [ドキュメントの CMYK 領域 -Japan Color 2001 Coated] を選択します。アプリケーションの [プリント] ダイアログ—[カラーマネジメント]—[プロファイル] 欄で [ドキュメントの CMYK 領域 -Japan Color 2001 Coated] を選択します。

この方法では、アプリケーション側では色変換を行わず、プリンタ (RIP) が色変換を行います。なお、この場合に、アプリケーションの [プリント] ダイアログ—[カラーマネジメント]—[プロファイル]—[プロファイル] でプリンタ固有のプロファイルを選択し、プリントダイアログでもプリンタ固有のプロファイルを選択すると、色変換が二重に行われてしまいます。この設定を間違わないように注意してください。

(※この方法を利用した場合、カラーマネジメントの出力結果は RIP の CMM に依存します。)



Adobe InDesign CS の場合

カラー設定

Adobe InDesign CS
編集メニュー
カラーマネジメント → 設定 → [日本-Japan Color]

プリンタ

Adobe InDesign CS
ファイルメニュー
プリント → カラーマネジメント → 以下を設定

・プリントプリセット: カスタム
・プリンタ: プリンタを選択
・PPD: Adobe PDF J

・ソーススペース: ドキュメント

・印刷領域
プロファイル:
ドキュメントの CMYK 領域
-Japan Color 2001 Coated

※この設定では色は実質
変換されない。

ACE (CMM)

[プリンタ]
ボタンをクリック

プリンタに実装の CMM

Adobe InDesign CS
プリント → 以下を設定

Mac OS X の [プリント] ダイアログ上から三番目のプルダウンメニューで

[プリンタの機能] を選択後、
[CMYK 色補正] をチェックし、
[CMYK シミュレーション] で
プリンタ固有のプロファイル
を選択。

カラーマネジメントの原理と運用(2)

③ イメージセッタ／CTP への出力 (PDF/X-1a 作成のための PostScript 書き出し)

イメージセッタ／CTP への出力に使う、PDF/X-1a 作成のための PostScript 書き出しは、カラーマネジメントの変換が起らないようにデータを書き出します。



Adobe InDesign CS の場合

カラーマネジメント

Adobe InDesign CS
編集メニュー
カラーマネジメント → 設定 → [日本-Japan Color]

プリント

Adobe InDesign CS
ファイルメニュー
プリント → カラーマネジメント → 以下を設定

ACE (CMM)

- ・プリントプリセット: カスタム
- ・プリンタ: PostScript(R) ファイル
- ・PPD: Adobe PDF
- ・ソーススペース: ドキュメント
- ・プリントスペース プロファイル: ドキュメントの CMYK 領域 -Japan Color 2001 Coated



Adobe Illustrator CS の場合

カラー設定

Adobe Illustrator CS
編集メニュー
カラー設定 → 設定 → [日本-Japan Color]

プリント

Adobe Illustrator CS
ファイルメニュー
プリント → カラーマネジメント → 以下を設定

ACE (CMM)

- ・プリント設定: カスタム
- ・プリンタ: Adobe PostScript ファイル
- ・PPD: Adobe PDF
- ・プリントスペース プロファイル: カラースペースを変換しない
- ・マッチング方法:

※ Windows 版での設定は P30「Windows 版での Adobe Illustrator CS の設定」を参照下さい。

アプリケーションでのプリフライトの注意点(1)

[PostScript® 出力前のチェック]

■「戻り」のないワークフロー実現のために

PDF/X-1a 仕様として作成された PDF は、最終的に Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライトできます。しかし、それ以前にアプリケーション側で PDF/X の仕様を十分に満たすようにしておけば、戻りのない、効率的なワークフローが実現できます。つまりアプリケーションでの正しいデータ作成が全ての基準になります。

何度もチェックするのは、一見無駄なように思えますが、いったんチェック方法が確立されれば、作業は定型化し、工程を効率化することができます。

■ネイティブアプリケーションでのチェック

色

- すべての色が CMYK、または特色として定義されていること。

画像

- 最新の状態の高解像度画像がリンクされていること。
- 透明効果を使ったオブジェクトは、すべて分割処理が行われていること。

フォント

- すべてのフォントが使用可能であること・太字、イタリック、下線などの文字修飾を使わないこと。
- サイズが印刷条件に適していること。

ページ設定

- 仕上りサイズ、裁ち落としサイズが適切に設定されていること。

CMYK、または特色か？

オリジナル画像とリンクされているか？

透明は分割されているか？

最小フォントサイズは適切か？

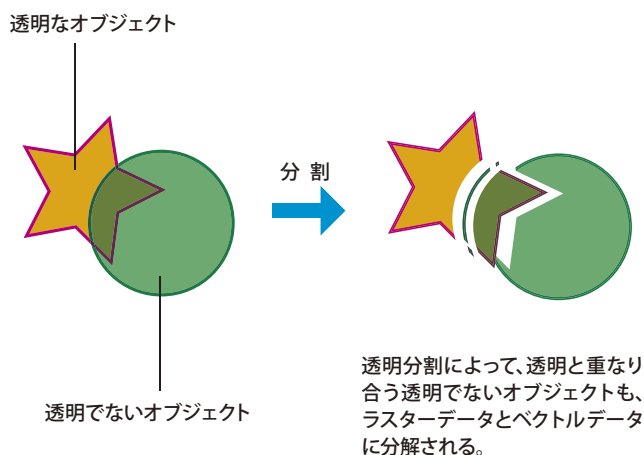
文字修飾はないか？

フォントは使えるか？



アプリケーションでのプリフライトの注意点(2)

[透明の分割・統合について]



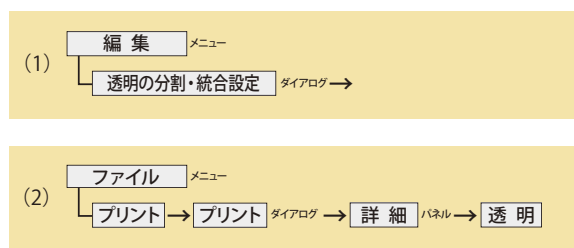
■「透明の分割・統合」とは？

Adobe InDesign と Adobe Illustrator は、ベクトルデータを含む透明効果をオブジェクトに適用できます。しかし、この透明効果は、PDF/X-1a の PDF のバージョン、PDF 1.3 は持つことができません。そのため、PDF/X-1a を作成するときは、透明は必ず分割・統合処理をする必要があります。分割・統合処理は、透明をラスターデータとベクトルデータに分解することです。なお、「透明の分割・統合」処理で注意すべきなのは、「透明」なオブジェクトだけが処理されるのではなく、「透明」なオブジェクトと重なるオブジェクトも処理されることです。たとえば「透明」を施した背景の上、または下に小さな文字、細い線などがあると、設

定によってはぎざぎざになったり、太くなったりすることがあります。以下、Adobe InDesign CS と Adobe Illustrator CS、それぞれの透明分割の手順を紹介します。

■ Adobe InDesign CS での透明分割・統合設定

InDesign CS での透明分割・統合設定には、下記の 2 つのダイアログを使います。

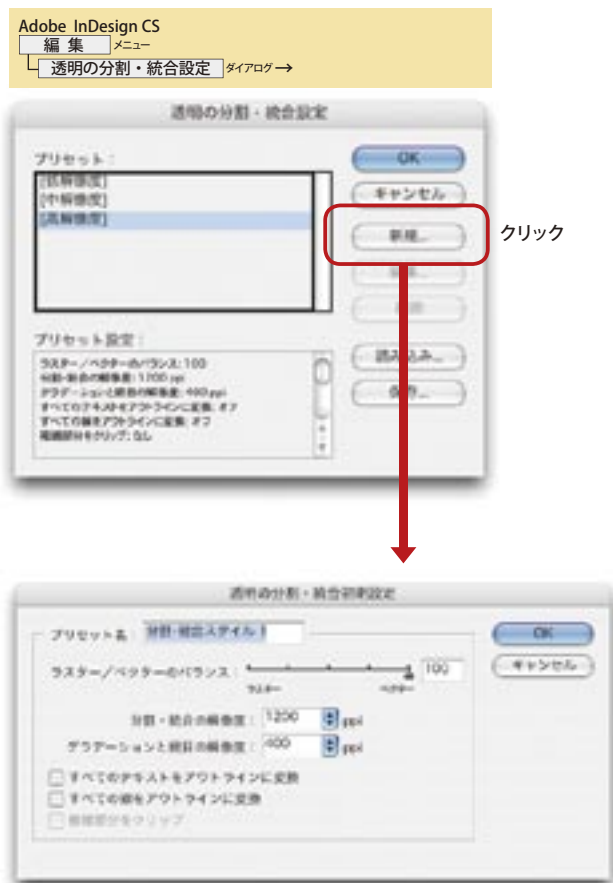


(1) は、透明の分割条件をスタイル登録するためのものです。標準の [スタイル] が [低解像度] [中解像度] [高解像度] と 3 種類あります。

一般的な商業印刷物の場合には「高解像度」を推奨します。

(1) のダイアログで選択したスタイルが、当該ドキュメントの透明分割についてのデフォルトとなります。

[プリセット] を選択し、[新規] ボタンをクリックすると、[透明の分割・統合初期設定] ダイアログ表示され、分割設定の内容を確認できます。このダイアログで、設定を変更し、[OK] ボタンをクリックすると、[分割・統合スタイル 1] の名称で新たな設定が作成されます。

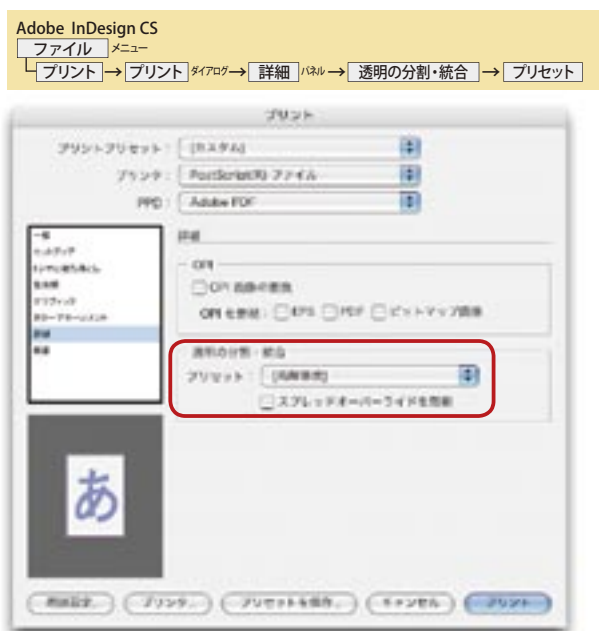


アプリケーションでのプリフライトの注意点(2)

左記(2)の[プリント...]ダイアログ—[詳細]パネル—[透明]は、出力時の設定です。この場合も[高解像度]を推奨します。これによってPostScript出力は、[高解像度]の設定にしたがって処理が行われます。

なお、透明オブジェクトの分割処理は、スプレッド(見開き)単位で設定することができます。

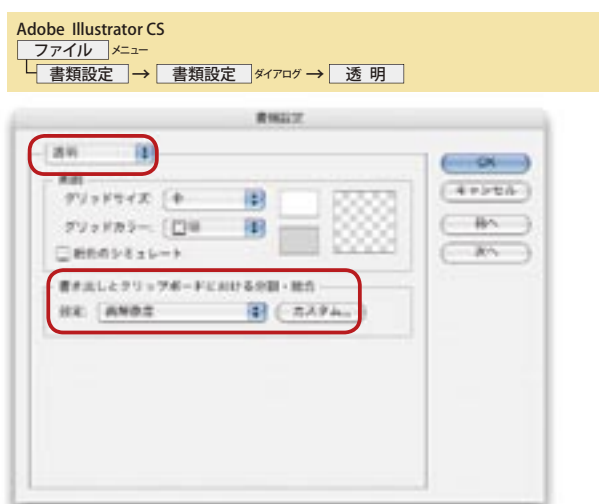
*詳細については、Adobe InDesign CSのマニュアルを参照してください。



■ Adobe Illustrator CS での透明分割・統合設定

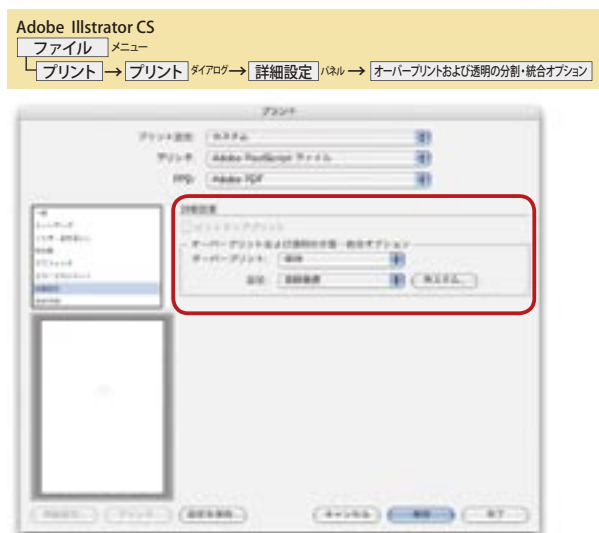
Adobe Illustrator CS での透明分割設定は、[ファイル]メニュー→[書類設定]で表示される[書類設定]ダイアログで行います。

[書類設定]ダイアログの左上端にあるプルダウンメニューから[透明]を選択します。書き出しとクリップボードにおける分割・統合の設定を[高解像度]にします。また、Adobe Illustrator CS では、分割結果を予測することができます。[ウィンドウ]メニューの[分割・統合プレビュー]が表示されます。これを選択すると、[分割・統合プレビュー]パレットが表示されます。



[プリント]ダイアログ—[詳細設定]パネル—[オーバープリントおよび透明の分割・統合オプション]は、出力時の設定です。この場合も設定は[高解像度]を推奨します。これによってPostScript出力は、[高解像度]の設定にしたがって処理が行われます。

オーバープリントは[保持]を選択してください。



アプリケーションでのプリフライトの注意点(3)

[アプリケーション設定 — Adobe InDesign CS , Adobe Illustrator CS —]

■ ポイントはフォントと画像

アプリケーションでのプリフライトのポイントは、フォントと画像です。画像については、すべてリンクさせます。フォントについては、使われているフォントがシステムにあるかどうかをチェックします。

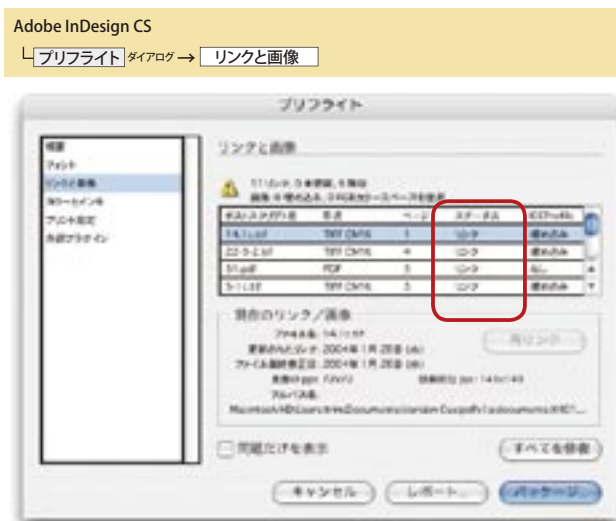
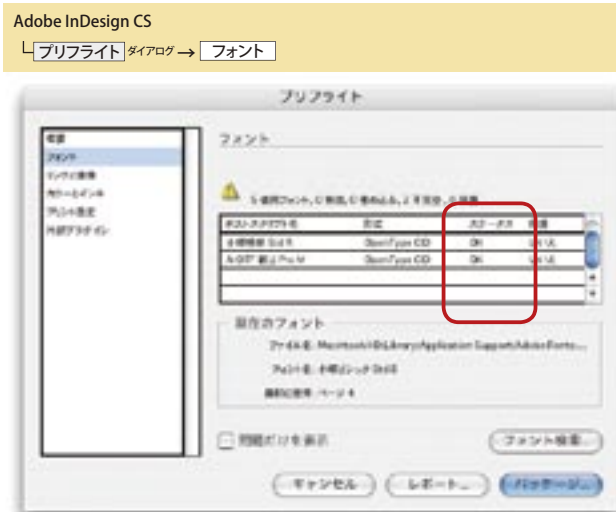
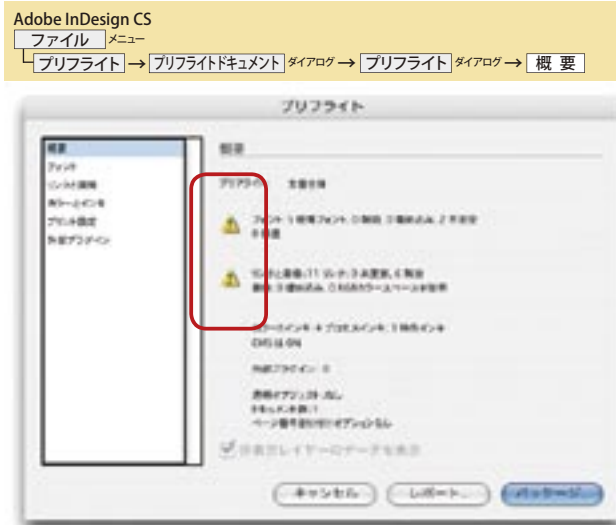
■ Adobe InDesign CS でのプリフライト

Adobe InDesign CS には、プリフライトの機能があります。この機能を利用するには、[ファイル] メニュー→[プリフライト]を選択します。選択すると[プリフライトドキュメント] ダイアログが表示され、プリフライトの進行を示すグラフが表示されます。このダイアログが消えると、[プリフライト] ダイアログが表示されます。

デフォルトでは、左側の欄で[概要]が選択されています。ここでプリフライトの概要が表示されます。問題点がある場合には、黄色の三角マークが表示されます。

[プリフライト] ダイアログ左側の欄で、[フォント]を選択すると、[フォント]の詳細が表示されます。フォントが埋め込まれている場合には、フォントの一覧中[ステータス]の欄に[埋め込み]または[OK]と表示されます。警告がでなければ先に進みます。警告がされた場合には、フォントの置き換えを行います。

[プリフライト] ダイアログ左側の欄で、[リンクと画像]を選択すると詳細が表示されます。一覧中[ステータス]の欄を見て、リンクがはずれている警告がでていないか確認をします。警告がでなければ画像のリンクを貼り直します。



アプリケーションでのプリフライトの注意点(3)

ダイアログ下端の「レポート」ボタンをクリックすると、プリフライト結果をテキストファイルで書き出すことができます。

■ Adobe Illustrator CS でのプリフライト

Adobe Illustrator CS には、プリフライトの機能はありませんが、フォント、画像を個別にチェックする機能があります。

フォントのチェックは、[文字]メニュー→[フォントの検索・置換]で行います。

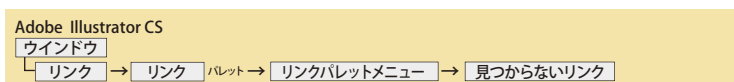
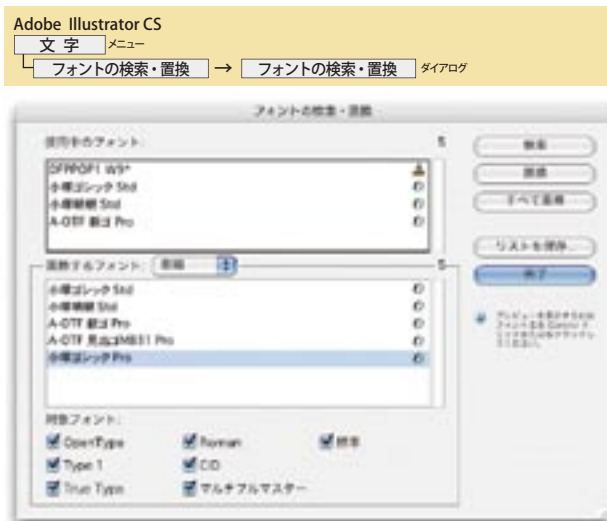
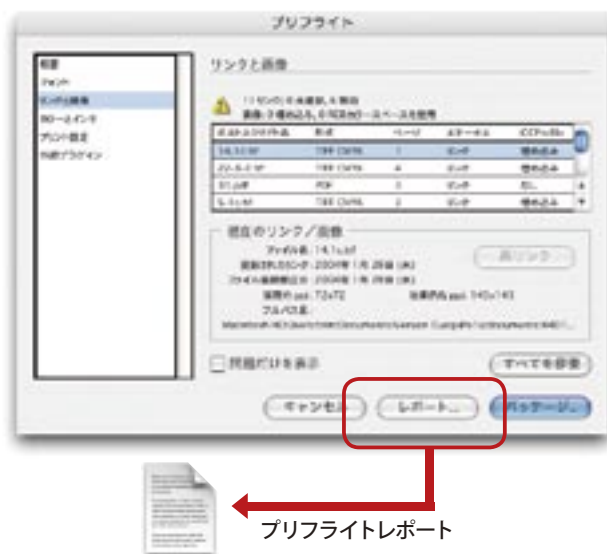
[フォントの検索・置換]メニューを実行すると、[フォントの検索・置換]ダイアログが表示されます。ダイアログ上端の[使用中のフォント]の欄でフォントを選択すると、該当のフォントがメインウィンドウで反転表示されます。ダイアログ右側の[次を検索]ボタンをクリックすると、他の箇所で使用されているフォントが反転表示します。

使用中のフォントに警告がでていてフォントを置き換える場合には、[使用中のフォント]で置き換えられるフォントを指定し、[置換するフォント]欄で置き換えるフォントを指定して、[置換]ボタンをクリックします。

画像のリンクは、[リンクパレット]で確認できます。[リンクパレット]を表示すると、リンク画像の一覧が表示されます。

[リンクパレットメニュー]で[見つからないリンク]を選択すると、リンクされていない画像のみが[リンクパレット]の一覧に表示されます。リンクを更新して下さい。

※透明処理の箇所にEPSファイルが含まれている場合には、必ず画像を埋め込んで下さい。



PostScript データ書き出し

(Adobe Illustrator CS)

■出力設定のポイント

アプリケーションでのプリフライトが終わったら、PostScript データの書き出しを行います。現状 Adobe Illustrator CS は PDF/X 生成に対応していないため、PostScript データを書き出し、Adobe Acrobat Distiller 6.0.1 で PDF/X を作成してください。

PostScript データの書き出しは、[ファイル]メニュー → [プリント]で [プリント] ダイアログを使って行います。ダイアログ左側には、8つの項目があります。これらのそれぞれについて説明します。

左欄の一番下の [設定内容] は設定の一覧表です。とくに説明することがありませんので省きます。

【一般】

上部にならんだ3つのプルダウンメニューでは、以下のとおり設定します。

- ・プリント設定：カスタム
- ・プリンタ：Adobe PostScript ファイル
- ・PPD：Adobe PDF

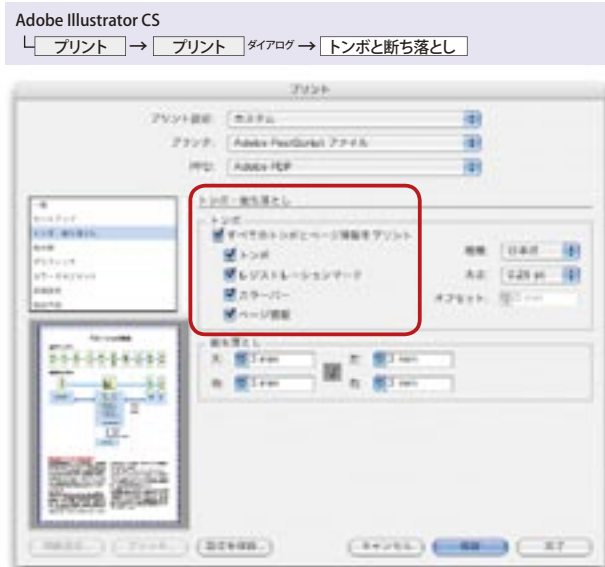
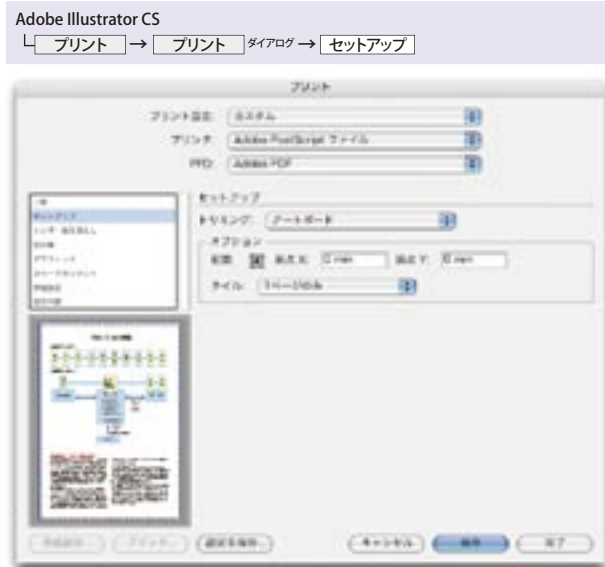
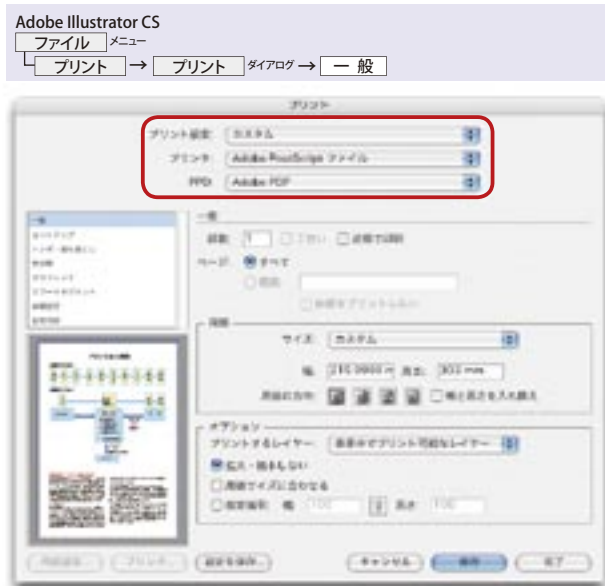
用紙サイズを「カスタム」に設定する。

【セットアップ】

初期設定のままで構いません。

【トンボ・断ち落とし】

初期設定のままで構いません。トンボなどの設定を行う場合には、[トンボ・断ち落とし] 欄で設定を行います。[すべてのトンボとページ情報をプリント] をチェックします。[すべてのトンボとページ情報をプリント] をチェックすると、それ以下の項目のすべてにチェックが入ります。

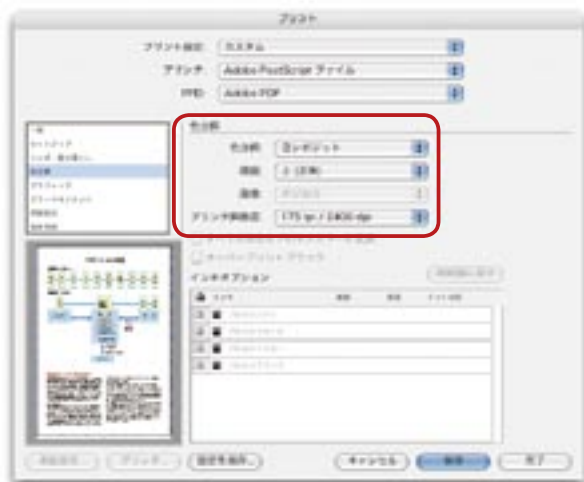


PostScript データ書き出し

(Adobe Illustrator CS)

Adobe Illustrator CS

プリント → プリント ダイアログ → 色分解



〔色分解〕

〔色分解〕の4つのプルダウンメニューでは、以下のとおり設定します。

- ・色分解：コンポジット
- ・膜面：上（正像）
- ・プリンタ解像度：出力線数に応じて設定して下さい。

※例えば、出力線数が175線の場合、「175lpi/2400dpi」を選択します。

Adobe Illustrator CS

プリント → プリント ダイアログ → カラーマネジメント



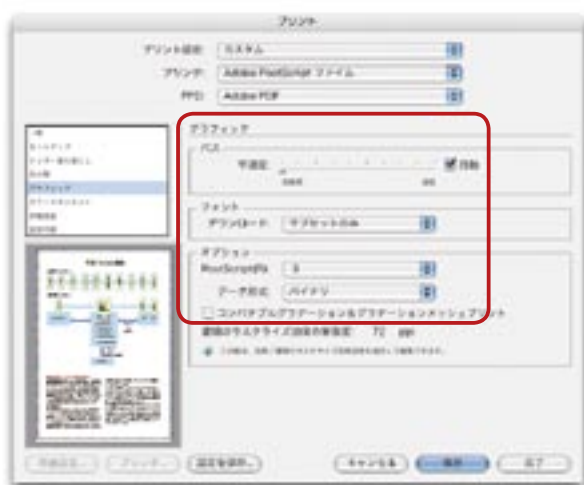
〔グラフィック〕

初期設定のままで構いません。

※書類にラスタライズ効果が適用されている場合には、「書類のラスタライズ効果の解像度」の値を確認してください。値を変更したい場合には、効果メニューの書類ラスタライズ効果の解像度で設定してください。

Adobe Illustrator CS

プリント → プリント ダイアログ → グラフィック



Adobe Illustrator CS

プリント → プリント ダイアログ → 詳細設定



〔カラーマネジメント〕

〔プリントスペース〕—〔プロファイル〕プルダウンメニューで、〔カラースペースを変更しない〕を選択します。

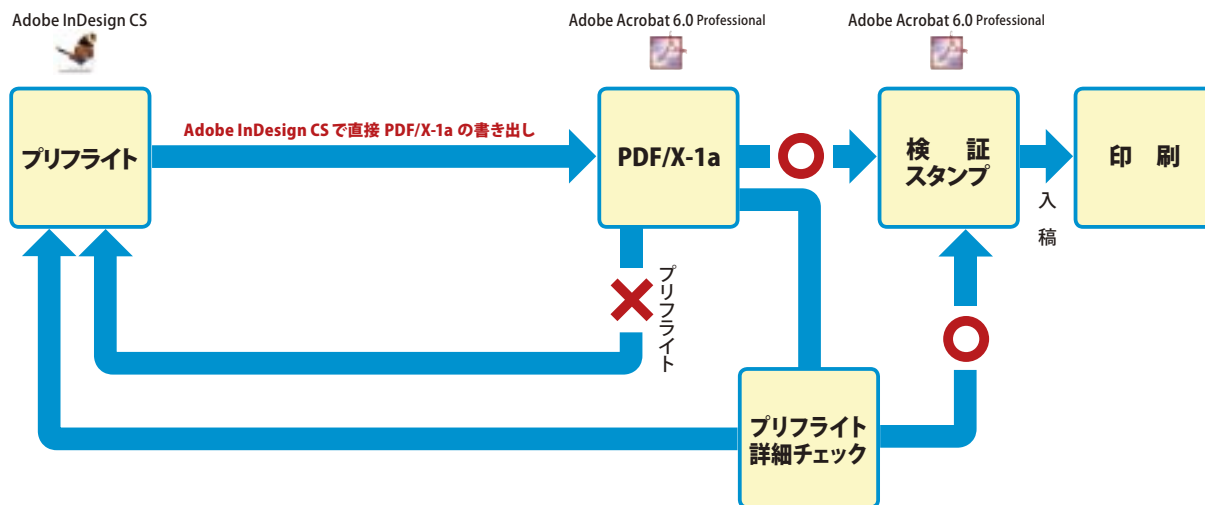
〔詳細設定〕

オーバープリントおよび透明の分割・統合オプションでは、以下の設定を行います。

- ・オーバープリント：保持
- ・設定：高解像度

PDF 変換とプリフライト (InDesign CS)

PDF 生成の流れ



■ PDF/X-1a 生成の流れ (Adobe InDesign CS 編)

InDesign CS での PDF/X-1a 生成の流れを概観すると、上図のようになります。まず、作成されたドキュメントをアプリケーション上でプリフライトし、[ファイル] — [PDF 書き出しプリセット] から [PDF/X-1a] を選択し、ダイレクトに書き出しを行います。

作成された PDF/X-1a は Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライトします。問題がなければ、デジタルスタンプを押して、印刷所に入稿します。問題がある場合には、プリフライトで指摘されますので、その部分をアプリケーションに戻って、修正します。Adobe Acrobat 6.0 Professional のプリフライトで、通常よりも一層詳細な検証を行うこともできます。より詳細なチェックが必要な場合は、この機能を利用しましょう。

Adobe InDesign CS にはいくつかの PDF 書き出しプリセットが組み込まれており、プリセットポップアップメニューにそれらが表示されます。この中で [PDF/X-1a] プリセット設定を適用します。

※トンボ付きの PDF を書き出す場合には、[PDF/X-1a_ トンボ付き] プリセットを www.adobe.co.jp よりダウンロード可能です。

「製品情報」「Print publishing」「Adobe InDesign CS PDF 書き出し設定ファイル」

InDesign「ファイル」→「PDF 書き出しプリセット」→「定義」を選択し、設定を読み込みます。
「PDF 書き出しプリセット」メニューにプリセットが追加されます。



PDF/X-1a_ トンボ付 .pdf

以下の設定は、[PDF/X-1a_ トンボ付き] を利用して説明します。

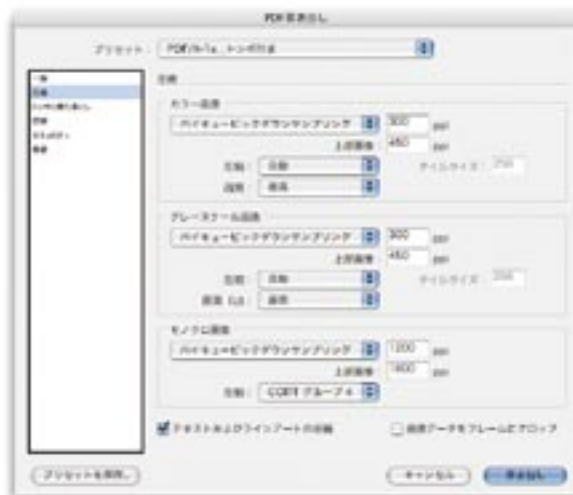
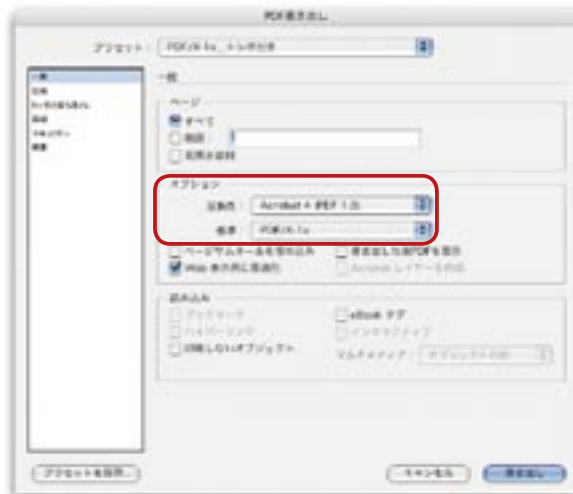
〔一般〕

オプションのプルダウンメニューでは、以下のとおり設定します。

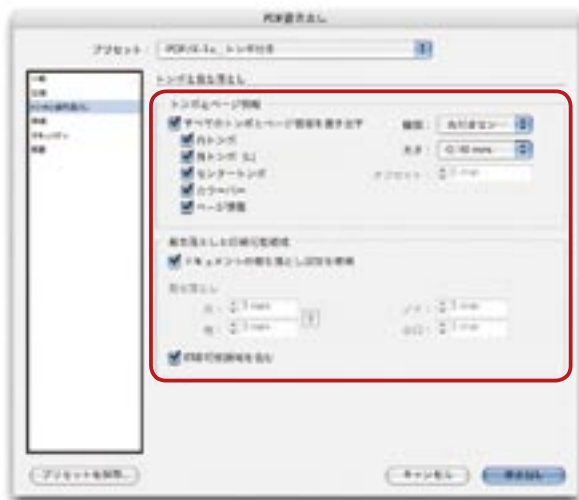
- ・ 互換性：Acrobat 4 (PDF 1.3)
- ・ 標準：PDF/X-1a

〔圧縮〕

初期設定のままで構いません。



PDF 変換とプリフライト (Adobe InDesign CS)



〔トンボと断ち落とし〕

トンボや裁ち落とし領域、および印刷可能領域を含めて PDF/X-1a を書き出す場合には、次の設定をします。

〔トンボと断ち落とし〕欄で、トンボなどの設定を行います。〔すべてのトンボとページ情報を印刷〕をチェックします。〔すべてのトンボとページ情報を印刷〕をチェックすると、それ以下の項目のすべてにチェックが入ります。

〔詳細〕

〔詳細〕のメニューでは、以下のとおり設定します。

- ・カラー - 出力先のプロファイル：

Japan Color 2001 Coated

- ・PDF/X-1a- インテントプロファイルの出力：

Japan Color 2001 Coated

- ・透明の分割・統合 - プリセット：高解像度



〔インキ管理〕

〔インキ管理〕 ボタンをクリックすると〔インキ管理〕ダイアログが表示されます。このダイアログの左下端の〔すべての特色をプロセスカラーへ〕をチェックすると、特色がプロセスカラーに変換されます。

〔セキュリティ〕

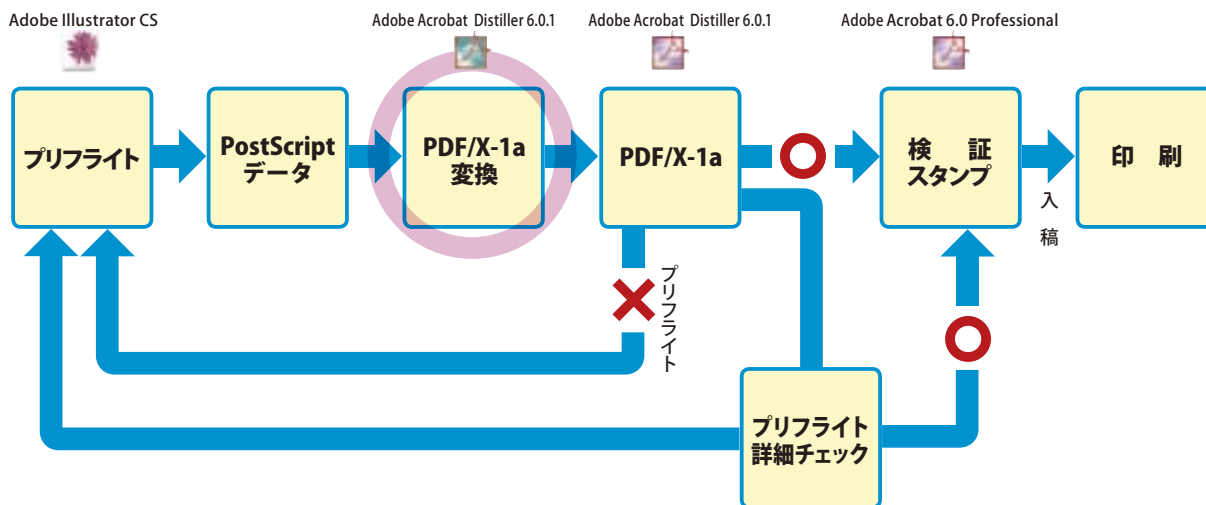
初期設定のままで構いません。

※書き出した PDF ドキュメントへ、パスワードによるアクセス制限することが可能です。



PDF 変換とプリフライト (Adobe Illustrator CS)

PDF 生成の流れ



■ PDF/X-1a 生成の流れ (Adobe Illustrator CS 編)

Adobe Illustrator CS からの PDF/X-1a 生成の流れを概観すると、上図ようになります。まず、作成されたドキュメントをアプリケーション上でプリフライトし、問題がなければ PostScript ファイル書き出しを行い、Adobe Acrobat Distiller 6.0.1 で PDF/X-1a に変換します。

作成された PDF を Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライトします。問題がなければ、デジタルスタンプを押して、印刷所に入稿します。問題がある場合には、プリフライトで指摘されますので、その部分をアプリケーションに戻って、修正します。

Adobe Acrobat 6.0 Professional のプリフライトで、通常よりも一層詳細な検証を行うこともできます。より詳細なチェックが必要な場合は、この機能を利用しましょう。

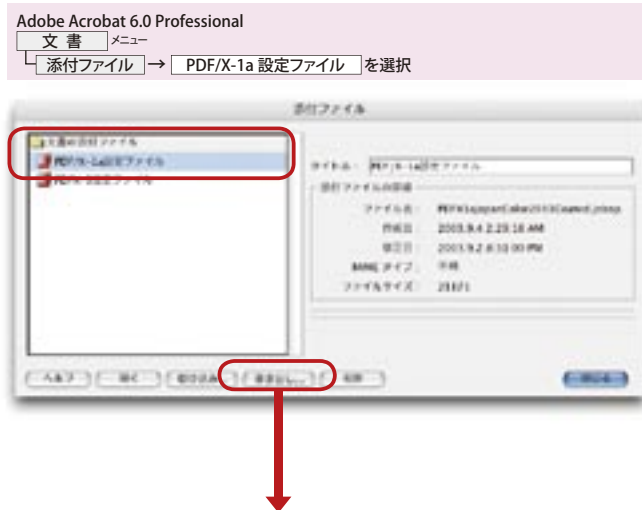
◎ Adobe Acrobat Distiller 6.0.1 の環境設定

PostScript ファイルを PDF/X-1a に変換する前に、Adobe Acrobat Distiller 6.0.1 が PostScript ファイルを、PDF/X-1a (Japan Color 2001 Coated) に変換できるように環境設定をする必要があります。

これには、「PDF/X に準拠した印刷用 PDF 作成ガイド」(ファイル名: pdfx_guide.pdf) に添付されている「PDF/X-1a 設定ファイル」を利用します。「PDF/X に準拠した印刷用 PDF 作成ガイド」は、以下の Web サイトから無料で入手できます。

<http://www.adobe.co.jp/print/main.html>

このファイルを Adobe Acrobat 6.0 Professional で開き、[文書]メニュー→[添付ファイル]を選択します。[添付ファイル] ダイアログが表示されます。[文書の添付ファイル] の欄で [PDF/X-1a 設定ファイル] を選択します。[タイトル] 欄に [PDF/X-1a 設定ファイル] と表示されます。この先は、2つの方法が利用できます。



PDF 変換とプリフライト

- (1) [PDF/X-1a 設定ファイル] を選択して書き出し、Distiller™ 画面へドラッグ&ドロップする。
- (2) PDF 上で直接開く。

(1) の方法を使う場合には、[添付ファイル] ダイアログ下端の[書き出し] ボタンをクリックします。

[抽出ファイルの指定] ダイアログが表示されます。
[別名で保存] の欄に[PDFX1aJapanColor2001Coated] と表示されているのを確かめます。右下端の [保存] ボタンをクリックすると、指定したフォルダに「PDFX1aJapanColor2001Coated.joboptions」ファイルを保存します。このファイルが、PDF/X-1a (Japan Color 2001 Coated) を設定するためのファイルです。

このファイルを、Acrobat Distiller 6.0.1 のアイコン、またはメインウィンドウにドラッグ&ドロップします。Acrobat Distiller 6.0.1 のメインウィンドウ [Adobe PDF 設定] —— [デフォルト設定] が [PDFX1a Japan Color2001Coated] となります。

(2) の方法を使う場合には、Adobe Acrobat 6.0 Professional の [添付ファイル] ダイアログ下端の [開く] ボタンをクリックします。Acrobat Distiller 6.0 が起動し、メインウィンドウ —— [Adobe PDF 設定] —— [デフォルト設定] が [PDFX1aJapanColor2001 Coated] となります。

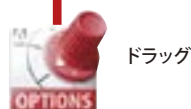
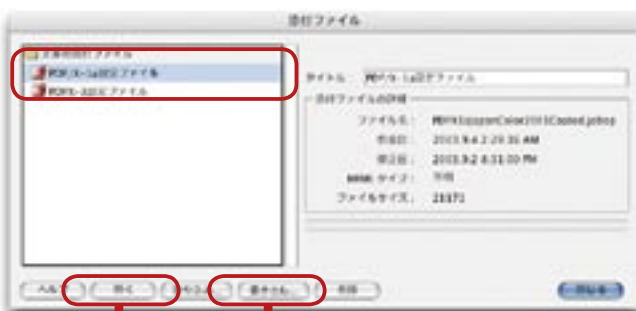
Acrobat Distiller 6.0.1 の環境設定が終わったら、PostScript ファイルを Distiller 6.0.1 にドラッグ&ドロップすると、PDF/X-1a (Japan Color 2001 Coated) への変換が始まります。PDF が作成されたら、Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライトを行います。

Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
添付ファイル → PDF/X-1a 設定ファイル を選択

Adobe Acrobat Distiller 6.0.1

文書 メニュー
添付ファイル → PDF/X-1a 設定ファイル を選択 → 書き出し ボタン



ドラッグ



PDF 変換とプリフライト

◎ Adobe PDF 設定のカスタマイズ

前頁の設定により Adobe PDF 設定の [デフォルト設定] を [PDFX1aJapanColor2001 Coated] に設定しましたが、雑誌広告基準カラーでカラーマネジメントされたファイルを作成しているなど、別の印刷条件用にファイルが作られている場合、Adobe PDF 設定を編集する必要があります。ファイルが PDF/X-1a の確認に合格するには一定の条件を満たす必要がありますので、ジョブオプションの設定は慎重に行ってください。

◎ PDF/X-1a 設定の編集方法

Adobe Acrobat 6.0.1 を起動し、デフォルト設定プルダウンメニューから PDFX1aJapanColor2001Coated を選択します。

[設定] メニュー→ [Adobe PDF 設定の編集] を選択すると、PDFX1aJapanColor2001Coated と表示されたダイアログボックスが開きます。別名で保存すると、新しい名前のついた PDFX1a の設定がデフォルトになります。

※構成済みの PDF/X-1a 準拠設定全部が維持されるよう PDFX1aJapanWebCoated などの別の名前で保存するよう推奨しています。また、これにより、完成したファイルを標準と照らし合わせて確認することができます。

[設定] ダイアログには 6 つの項目があります。これらそれぞれについて説明します。

【一般】

オプションのプルダウンメニューでは、以下の通り設定します。

(ファイルオプション)

- 互換性のある形式：Acrobat 4.0 (PDF 1.3)

PDF/X-1a 準拠ファイルが必要な場合は、この設定を変更しないでください。

- オブジェクトレベルの圧縮：オフ
- ページの自動回転：オフ
- 綴じ方：左
- 解像度：2400dpi



Adobe Distiller 6.0.1

設定メニュー
Adobe PDF 設定の編集を選択



PDF 変換とプリフライト

【フォント】

- すべてのフォントを埋め込む：**チェック**
- サブセットの全フォントに対する割合：
チェック (100%)
- 埋め込めなかったときの処理：
ジョブをキャンセル



【カラー】

- (Adobe カラー設定)
- 設定ファイル：**なし**
- カラーマネジメントポリシー：
カラー変更なし
- レンダリングインデント：**デフォルト**



【PDF/X】

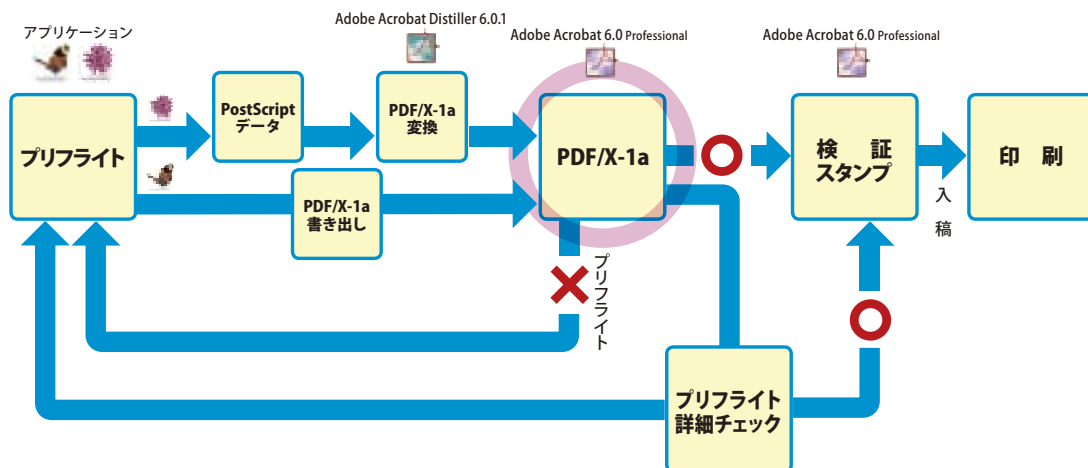
- (PDF/X 準拠とレポート)
- PDF/X-1a：**チェック**
- 準拠していない場合の処理：**ジョブをキャンセル**
- (文書に指定がない場合のデフォルト値)
- 出力インデントプロファイル：
出力プロファイルを選択
- レジストリ名 (URL)：**チェック**
- ※これは指定印刷条件を表すパラメータです。



プルダウンメニューで
ICC プロファイルを選択



PDF 変換とプリフライト



◎ Adobe Acrobat 6.0 Professional でプリフライト

Adobe Acrobat 6.0 Professional のプリフライト機能を使うには、対象となるPDF/X-1aファイルを開き、[文書]メニュー→[プリフライト]を選択します。[プロファイルを読み込み中] ダイアログが表示され、進行を示すグラフが表示されます。同ダイアログが消えると、[プリフライト：プロファイル] ダイアログが表示されます。

プロファイルの一覧表から [PDF/X-1a 準拠] を選択し、[解析] ボタンをクリックします。[文書を解析] ダイアログが表示され、進行を示すグラフが表示されます。同ダイアログが消えると、[プリフライト：結果] ダイアログが表示されます。プリフライト結果に問題がなければ、[問題] 欄に [問題は検出されませんでした] と表示されます。

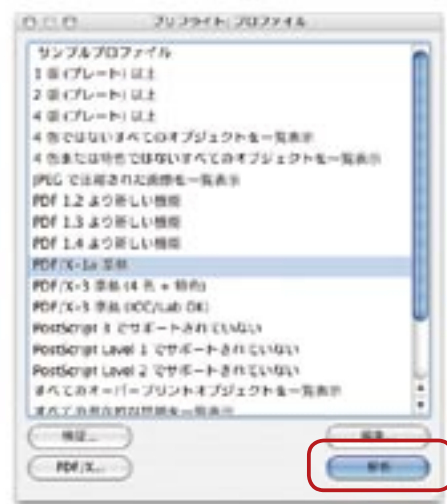
下端の [検証] ボタンをクリックすると、[続行] ダイアログが表示され [文書に検証スタンプが付加されて保存されます] と表示されます。[OK] ボタンをクリックします。[レポート] ダイアログが表示され、進行を示すグラフが表示されます。同ダイアログが消えると [プロセス完了] ダイアログが表示され、[検証は正常に付加されました] と表示されます。これでデジタルスタンプが押されています。

[プロセス完了] ダイアログの [OK] ボタンをクリックすると、[プリフライト：結果] ダイアログに戻ります。同ダイアログ下端の [完了] ボタンをクリックすると、[プリフライト：プロファイル] ダイアログに戻ります。通常のチェックでかまわない場合は、クローズボックスをクリックしてダイアログを閉じます。これで、通常のプリフライトは終了です。

詳細なチェックが必要な場合には、[プリフライト：プロファイル] ダイアログ左下端の [PDF/X-1a...] ボタンをクリックします。

Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト → PDF/X-1a 設定ファイル を選択 → 書き出し ボタン



Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト → 解析 ボタン

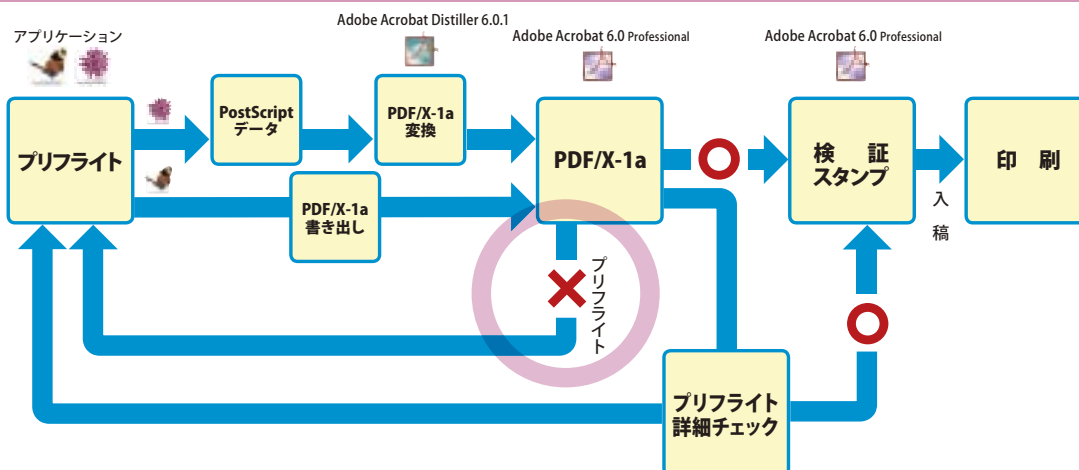


Adobe Acrobat 6.0 Professional

続行ダイアログ → OK ボタン



PDF 変換とプリフライト



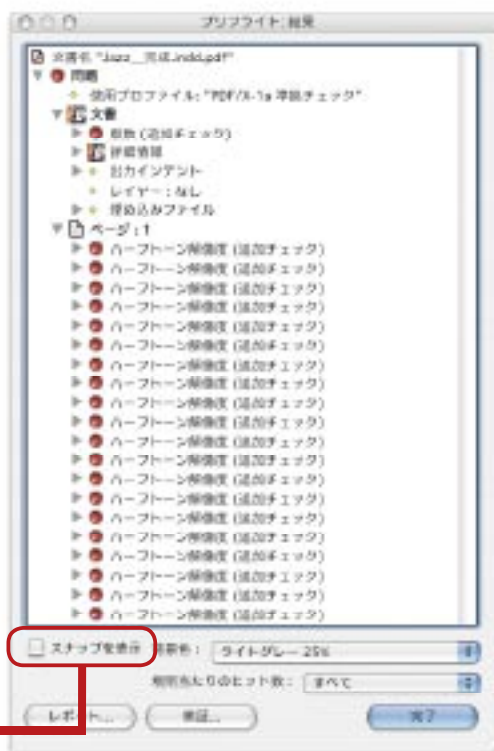
◎プリフライト結果に問題がある場合

プリフライトで問題がある場合には、[プリフライト：結果] ダイアログの [問題] 欄に問題点が赤い丸のアイコンで表示されます。ページを構成するコンテンツに問題がある場合には、問題点を選択し、左下の [スナップを表示] チェックボックスをチェックすると、問題のあるコンテンツが表示されます。アプリケーションに戻って、コンテンツを修正する場合に、この表示が役に立ちます。

また、左下端の [レポート] ボタンをクリックすると、プリフライト結果をファイルにして書き出すことができます。[レポート] ボタンをクリックすると、[プリフライト：レポート] ダイアログが表示されます。任意のファイル形式を選択して、[OK] ボタンをクリックすると、ファイルが書き出されます。ファイル形式の欄で [PDF レポート] を選択している場合、[スナップを表示] で表示されたコンテンツが表示されるほか、「しおり」で各項目が整理された PDF が作成され、アプリケーションでの修正時に参照するのに便利です。

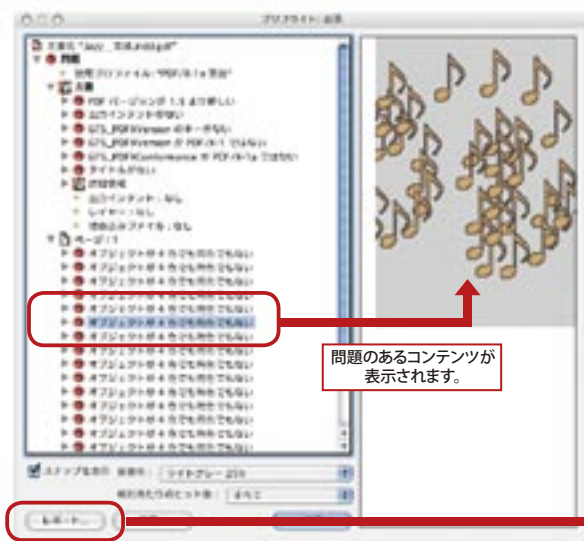
Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト → 解析 ボタン



Adobe Acrobat 6.0 Professional

プリフライト結果 ダイアログ → [スナップを表示] をチェック



問題のあるコンテンツが表示されます。

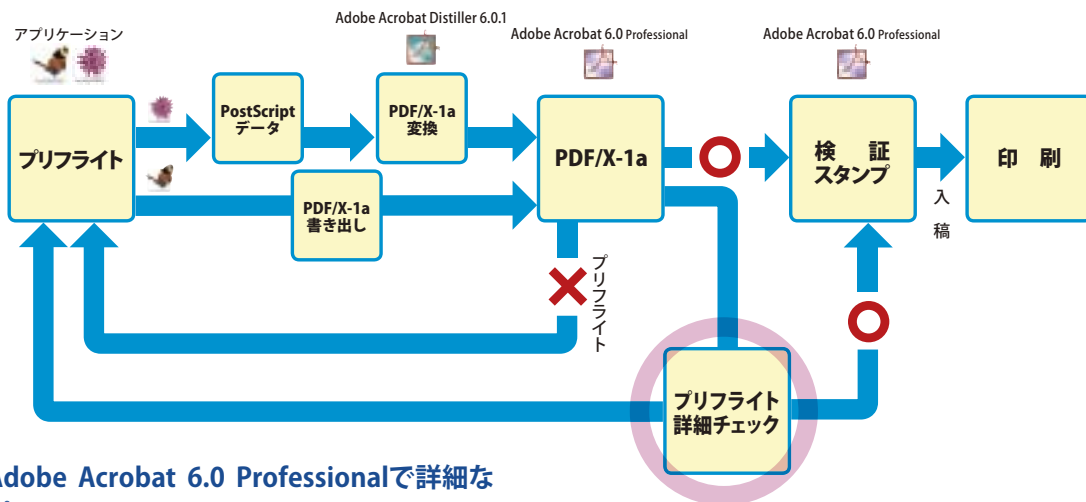
Adobe Acrobat 6.0 Professional

プリフライト結果 ダイアログ → [レポート] ボタン



レポートファイルを出力

PDF 変換とプリフライト



◎ Adobe Acrobat 6.0 Professionalで詳細なプリフライト

詳細なプリフライトが必要な場合は、[プリフライト：プロファイル] ダイアログ左下端の [PDF/X...] ボタンをクリックします。[プリフライト：PDF/X] ダイアログが表示されます。[検証] ボタンをクリックします。[プリフライト：PDF/X-1a を検証] ダイアログが表示されます。[追加チェック (PDF/X 標準以外) を実行] をチェックし、色版の最大数、ハーフトーン画像の最小解像度などを入力します。

[検証] ボタンをクリックします。[文書を解析] ダイアログが表示され、進行を示す画面が表示されます。

問題がない場合、[文書を解析] ダイアログが消えると、[プリフライト] ダイアログが表示され、[検証完了 — 現在の PDF ファイルは有効な PDF/X-1a ファイルです] と表示されます。[レポート] ボタンをクリックすると、[プリフライト：結果] ダイアログが表示されます。[完了] ボタンをクリックすると、[プリフライト：プロファイル] ダイアログに戻ります。

[プリフライト] ダイアログで、[OK] ボタンをクリックすると、すぐに [プリフライト：PDF/X] ダイアログに戻ります。右下端の [完了] ボタンをクリックすると、[プリフライト：プロファイル] ダイアログに戻ります。

プリフライトで問題がある場合には、[プリフライト] ダイアログが表示され、[検証失敗 — 現在の PDF ファイルは有効な PDF/X ファイルではありません] と表示されます。右下端の [レポート] ボタンをクリックすると、[プリフライト：結果] ダイアログが表示されます。このダイアログの使い方は、「プリフライト結果に問題がある場合」を参照してください。

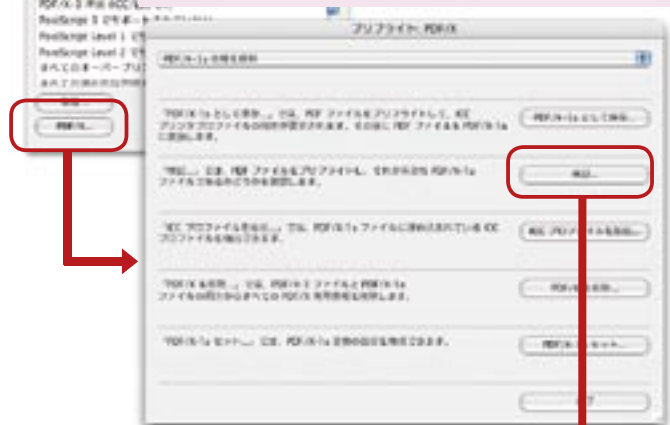
Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト



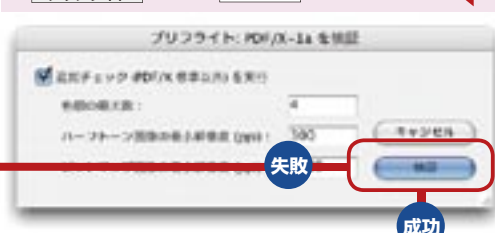
Adobe Acrobat 6.0 Professional

プリフライト ダイアログ → PDF/X ... ボタン



Adobe Acrobat 6.0 Professional

プリフライト ダイアログ → PDF/X ... ボタン

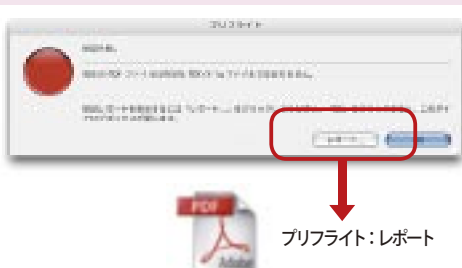


失敗

成功

Adobe Acrobat 6.0 Professional

プリフライト ダイアログ → PDF/X ... ボタン



プリフライト：レポート

Adobe Acrobat 6.0 Professional

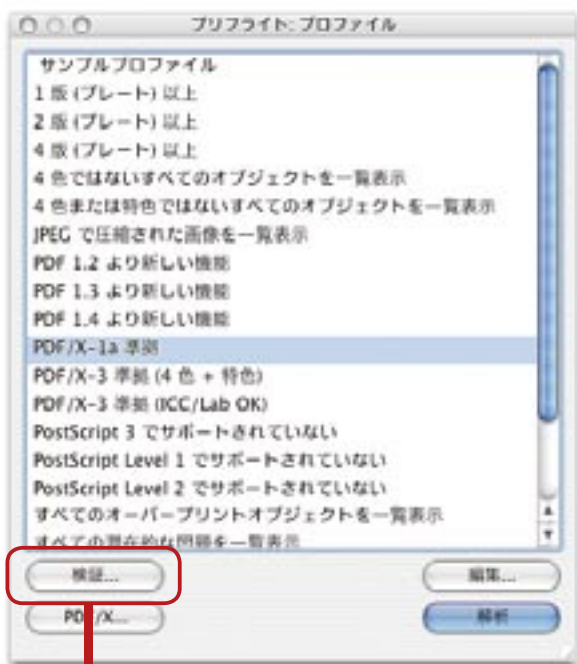
プリフライト ダイアログ → PDF/X ... ボタン



出力前のチェック項目

Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト



入稿された PDF/X-1a は、出力側でもその内容を確認しておく必要があります。ここでは、プリフライト結果を確認するための検証スタンプ、CMYK 設定、透明分割について説明します。

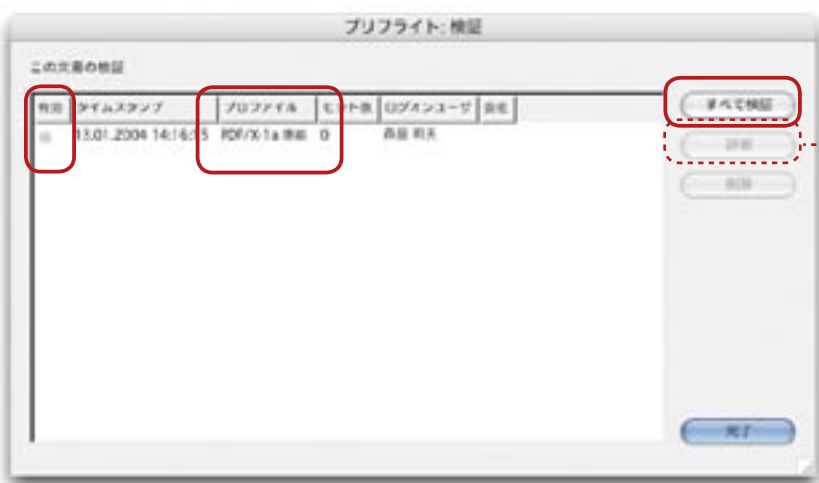
■検証スタンプの確認

検証スタンプを確認するには、[プリフライト:プロファイル] ダイアログを使います。同ダイアログを開くには、[文書] メニュー→[プリフライト] を選択します。同ダイアログの左下にある[検証...] ボタンをクリックします。[プリフライト:検証] ダイアログが表示されます。ここに表示されているのが検証スタンプです。

[プロファイル] 欄が [PDF/X-1a 準拠] となっていることがポイントです。検証スタンプの押印以降に変更がないかを確認するには、右側の [すべて検証] ボタンをクリックします。変更がない場合には、[有効] 欄の○が緑に変化します。変更があった場合には、赤く変化します。赤く表示された場合には、変更があったことを示します。この場合、再度プリフライトを実行する必要があります。

Adobe Acrobat 6.0 Professional

文書 メニュー
プリフライト ダイアログ→ 検証 ボタン



表示されている検証スタンプの詳細を確認するには、検証スタンプを選択し、[詳細] ボタンをクリックします。[プリフライト:プロファイル] ダイアログが表示されます。このダイアログで表示される内容は、[プリフライト:結果] (20 ページ参照) ダイアログと同じものです。



出力前のチェック項目

■分版プレビュー

ページコンテンツを構成する色の確認には、[分版プレビュー] 機能を使います。この機能を利用するには、[アドバンスト] メニュー→[分版プレビュー] を選択します。

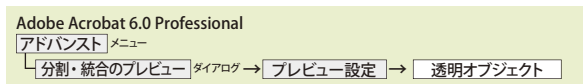
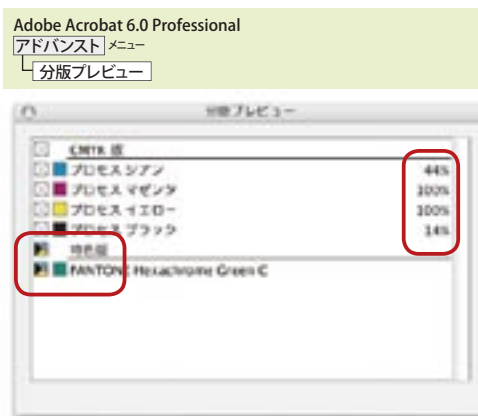
[分版プレビュー] ダイアログが表示されます。

このダイアログが表示された状態で、カーソルをコンテンツに当てると、ダイアログの各版の欄の右端に [%] の数値が表示されます。これが、その部分を構成する色の濃度です。

個別の色版ごとに表示するには、表示したい色のみの項目の行頭のチェックボックスを「×」にします。「CMYK 版」のチェックをはずすと全部の色が非表示となりますので、いったんこれを実行してから、個別の色をチェックすると迅速に個別の表示ができます。

1色表示の場合は、どの色でもグレーまたは黒(濃度100%の場合)で表示されます。2色以上をチェックしている場合は、実際の色が表示されます。

ここではスミ(K版)と他の版のオーバープリントの設定の確認が重要です。スミがノセになっていればOKですが、ヌキになっていれば抜けてしまいますので修正が必要です。



■透明分割プレビュー

透明分割の必要性和アプリケーション上での処理については、10 ページ以降で説明したとおりです。この結果は、Adobe Acrobat 6.0 Professional 上でも確認できます。この機能を利用するには、[アドバンスト] メニュー→[透明部分の分割・統合のプレビュー] を選択します。[分割・統合プレビュー] ダイアログが表示されます。

右側の [分割・統合の設定] で分割の設定を行い、[プレビュー設定] の欄で確認したい項目をチェックすると、該当の部分が赤く表示されます。特定の部分を拡大表示するには、該当部分をクリックします。

PDF/X-1a では透明オブジェクトがファイル内に含まれていないはずなので、透明オブジェクトがないかどうかをチェックして下さい。



Adobe Acrobat 6.0 Professional からポストスクリプト出力

効率的な PDF/X ワークフローでは、PDF を直接出力デバイスに渡すことが理想ですが、PostScript Level 2 などの RIP での出力も考慮し、Adobe Acrobat 6.0 Professional から PostScript 出力の方法を解説します。

この設定は、[詳細設定] ダイアログで行います。このダイアログを表示するには、[ファイル] メニュー→[プリント] で [プリント] ダイアログを表示し、[プリンタ] プルダウンメニューで送信する出力デバイスを選択します。次いで、[詳細設定...] ボタンをクリックします。[詳細設定] ダイアログの左の欄には4つのオプションがあります。それぞれの設定を説明します。

【カラー】

以下を設定します。

色：**コンポジット**

スクリーン：**175 lpi 2400 dpi**

プロファイル：**ソースと同じ (カラーマネージメントなし)**

【トンボと断ち落とし】

PDF にトンボの設定がされていない場合でも、トンボ設定をすることができます。

以下を設定します。

トンボのスタイル：**日本式トンボ**

トリミングサイズ：**チェック (状況による)**

コーナートンボ (内)：**チェック (状況による)**

コーナートンボ (外)：**チェック (状況による)**

センタートンボ：**チェック (状況による)**

カラーバー：**チェック (状況による)**

【透明部分の分割・統合】

アプリケーションと同じ設定にします。

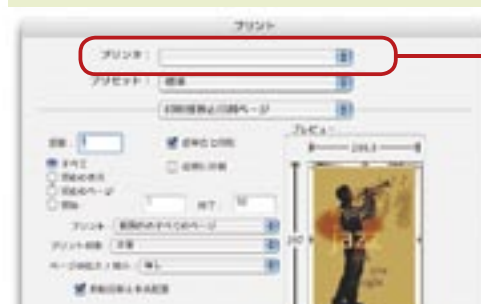
【PostScript オプション】

以下を設定します。

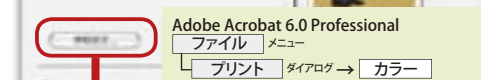
フォントとリソースのポリシー：**使用範囲ごとに送信**

PostScript：**レベル3 (出力機に合わせます)**

トランスファ関数を送出：**チェック**



イメージセッタ等の出力先の PPD を選択



Adobe Acrobat 6.0 Professional

ファイル メニュー

プリント ダイアログ →

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

トンボと断ち落とし

詳細設定

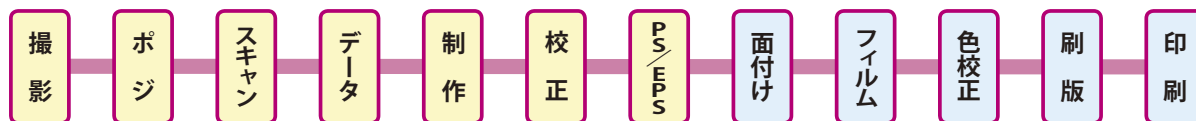
トンボと断ち落とし

詳細設定

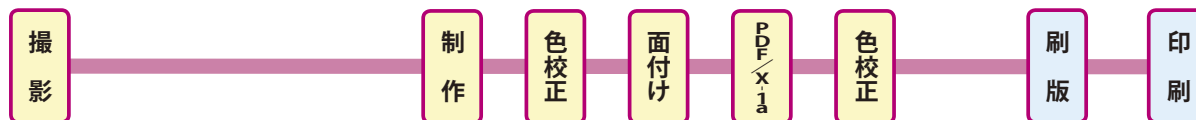
トンボと断ち落とし

制作会社が PDF/X-1a を生成するワークフロー

〔従来のワークフロー〕

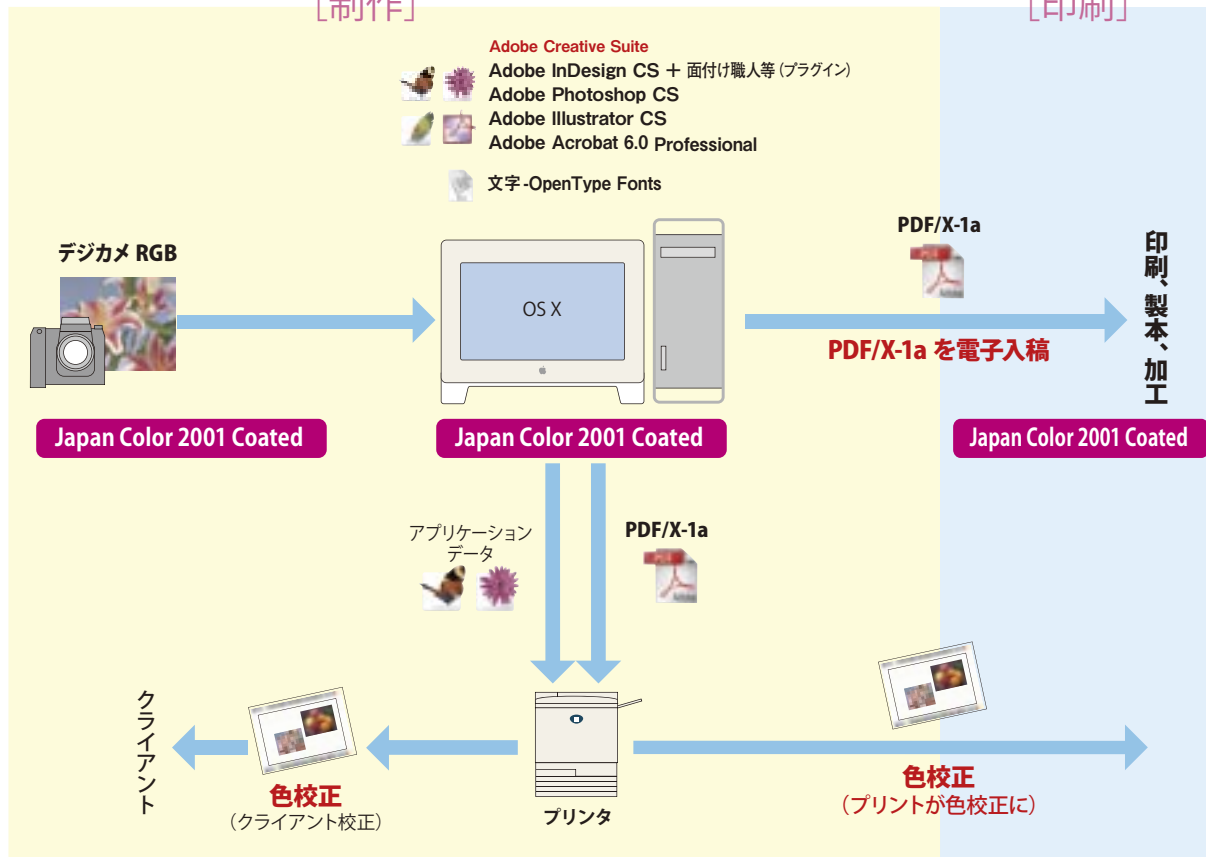


〔新世代ワークフロー〕



〔制作〕

〔印刷〕



■制作側が責任を持ってフィニッシュワークができる

PDF/X-1a を利用するワークフローには、制作会社が生成する場合と、印刷会社が生成する場合が考えられます。制作会社が PDF/X-1a を生成するワークフローでは、画面で見えているもの、あるいはプリンタで出力したものが、そのまま印刷に反映されます。言い方を変えれば、制作側が制作物の最終確認を行うことが可能になります。

これまでのアプリケーションからの PostScript 出力では、文字、コンテンツのズレ、微妙な色の違いなど、高精度出力に伴う問題は、印刷会社等、出力側の経験値で解決してきました。こうした確認は、イメージセッタなどの出力機を持たない限りできなかったわけです。しかし、PDF/X-1a ベースのワークフローでは、PDF がデジタルの最終フィルムのような位置づけになりますので、Acrobat Distiller 6.0.1 をデスクトップにあるイメージセッタのように活用することによって、制作側でも最終出力の内容を容易に確認できるようになったのです。

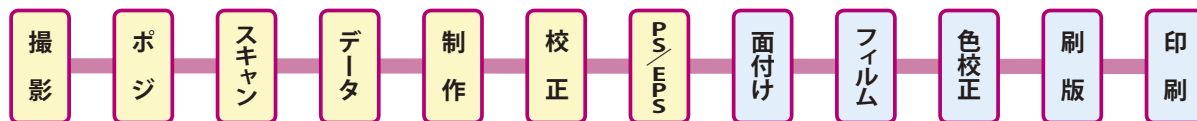
■セキュリティ問題などアプリケーションデータでの問題も解消

これによって、クライアントから赤字が入った場合でも、制作側だけで責任を持って、迅速に修正ができます。出力サイドからのフィードバックを待っているこれまでのように、校正出力を待つ必要がなくなったわけです。

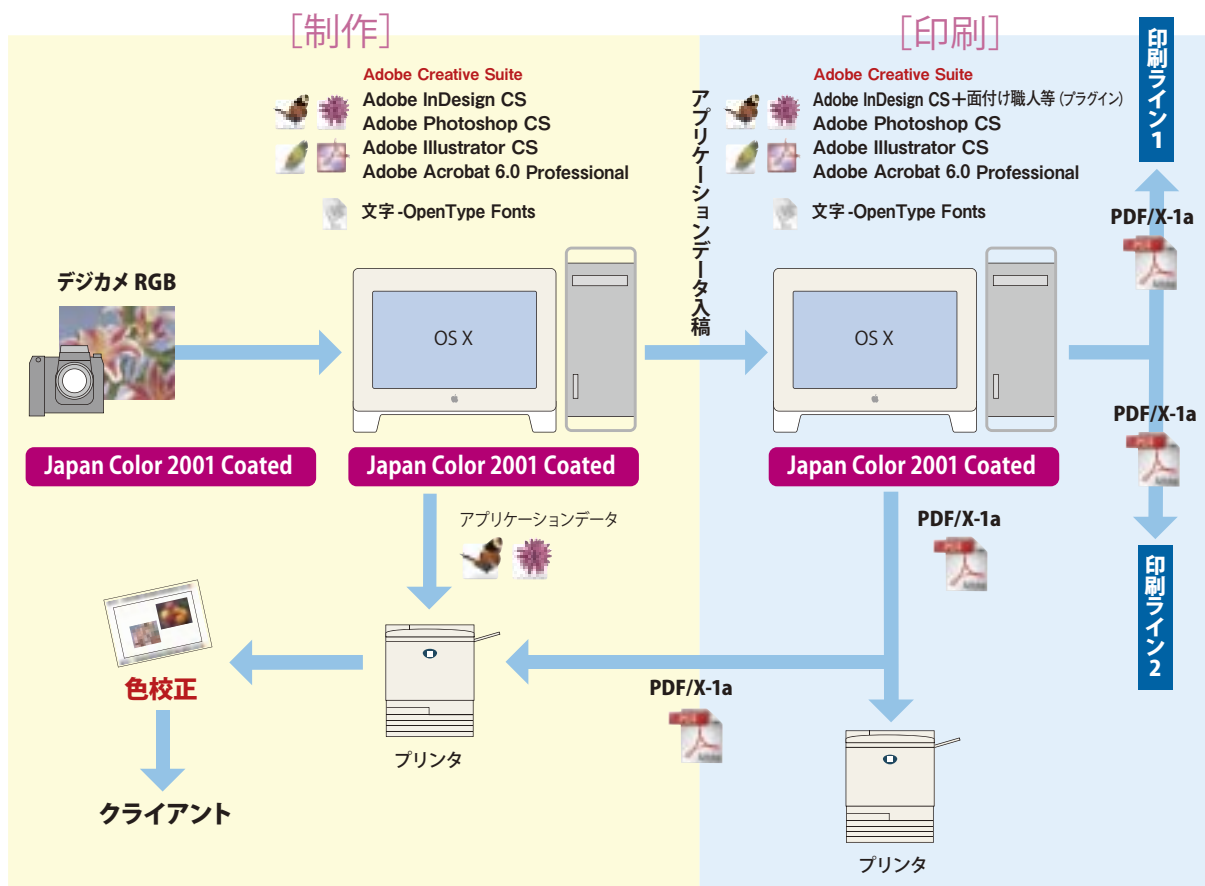
さらに、アプリケーションデータを出力側に渡すワークフローでは、データ管理などの問題が起こりがちでしたが、これも PDF/X-1a を使うことで解決できます。PDF には、多様で厳格なセキュリティ機能があります。出力用途に限定した PDF を出力側に渡すことによって、制作側はコンテンツの管理をすべてセルフハンドリングできます。

印刷会社が PDF/X-1a を生成するワークフロー

〔従来のワークフロー〕



〔新世代ワークフロー〕



■柔軟なワークフローが実現する

印刷会社が PDF/X-1a を生成するワークフローは、制作側にプリプレスのスキルが弱い場合の方法です。

印刷会社にとっては、PDF/X-1a ワークフローを採用することで、柔軟な工程を組むことができるメリットが生まれます。PDF/X-1a ファイルは汎用のファイルですから、Acrobat さえあれば、どの部門、どの会社でも出力処理が可能だからです。

複数の生産ラインで出力ができる標準的なデジタルフィルムとしての PDF/X により、在版の管理や複数の生産ラインによるワークフローの統合が容易になります。

■校正ワークフローの改善

現在まで、DDCP など出力した校正紙を制作側に戻しているケースで、制作側がカラー管理されたプリンタを保有している場合、PDF/X-1a のファイルを制作例にリモートで戻して、プリンタからの出力で印刷の色の確認をとってもらうことで、校正戻しの効率を高められます。

Windows版でのAdobe Illustrator CS の設定

Windows 版の Adobe Illustrator CS でも、Macintosh 版と同じダイアログでの設定操作です。それをここでまとめて説明します。

6 ページ

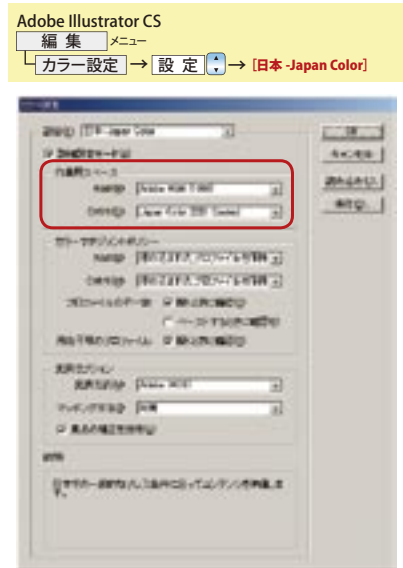
「カラーマネジメントの原理とその運用 (2)」

■プリンタでの色合わせ

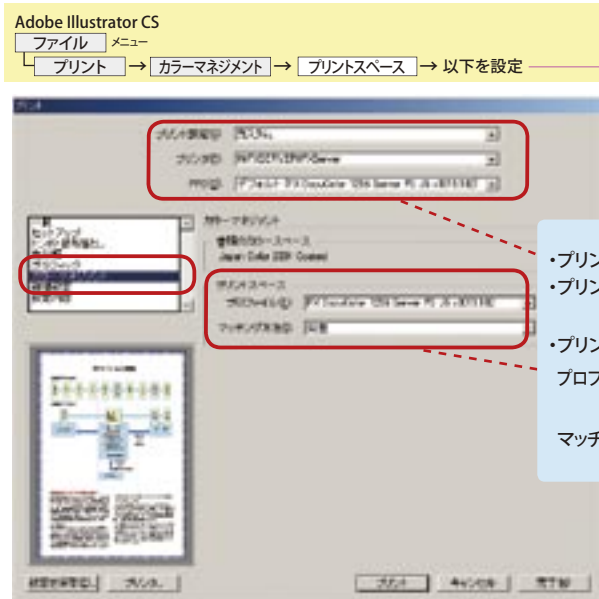
「①アプリケーションのカラーマネジメント機能を使う場合」

「Adobe Illustrator CS の場合」は、以下の手順で操作してください。

カラーマネジメント



プリント



×
ACE
(CMM)

- ・プリント設定: カスタム
- ・プリンタ: プリンタ選択
- ・プリントスペース
プロファイル: プリンタ用
ICCプロファイル
- ・マッチング方法: 知覚

8 ページ

「カラーマネジメントの原理とその運用 (2)」

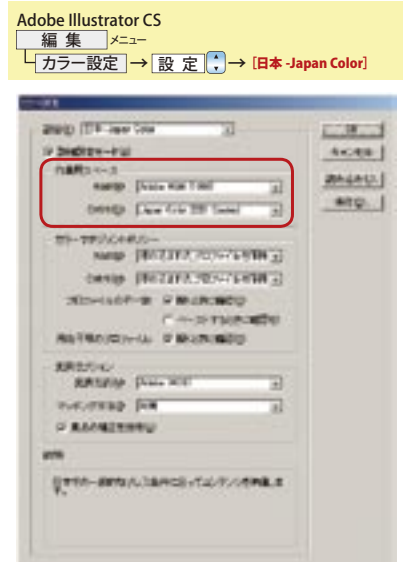
■プリンタでの色合わせ

「③イメージセッタ/CTP への出力」

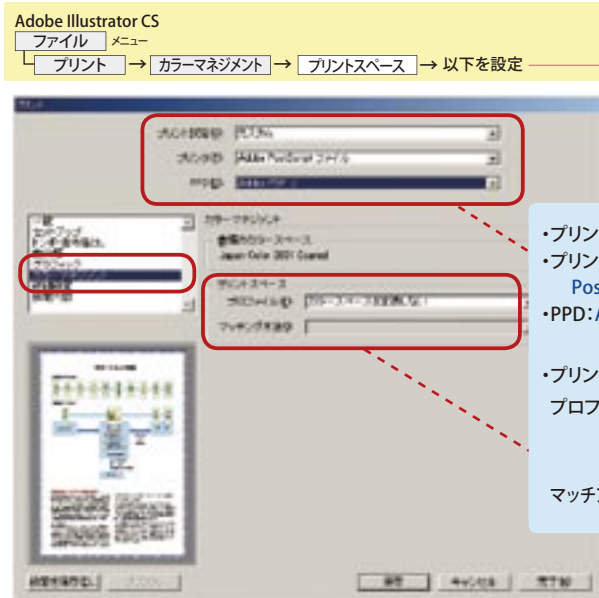
(PDF/X-1a 作成のための PostScript 書き出し)

「Adobe Illustrator CS の場合」は、以下の手順で操作してください。

カラーマネジメント



プリント



×
ACE
(CMM)

- ・プリント設定: カスタム
- ・プリンタ: Adobe
PostScriptファイル
- ・PPD: Adobe PDF J
- ・プリントスペース
プロファイル:
カラー空間を
変換しない
- ・マッチング方法:

印刷用PDF作成と入稿の手引き

アドビアプリケーションから PDF/X-1a の作成



Adobe Creative Suite



Adobe® InDesign® CS 日本語版



Adobe® Photoshop® CS 日本語版



Adobe® Illustrator® CS 日本語版



Adobe® Acrobat® 6.0 Professional 日本語版



Adobe® GoLive® CS 日本語版